世界冬の都市市長会
パンフレット

WWCAM
World Winter Cities Association for Mayors

2022 年９月現在

目　　次

ごあいさつ.....1
世界冬の都市市長会のあゆみ.....2
冬の都市とは.....3
世界冬の都市市長会の意義.....3
会員都市一覧.....4
活動内容
　世界冬の都市市長会議.....4
　冬の見本市と冬の都市フォーラム.....7
　実務者会議.....8
　小委員会.....9
　活性化事業.....10
　広報.....11
　国連登録ＮＧＯ.....11
組織と運営.....12
会員になるには.....13
主な活動成果.....14
入会申請書.....18
会議結果
　第 1 回札幌会議.....19
　第 2 回瀋陽会議.....21
　第 3 回エドモントン会議.....22
　第 4 回トロムソ会議.....24
　第 5 回モントリオール会議.....25
　第 6 回アンカレッジ会議.....26
　第 7 回ウィニペグ会議.....28
　第 8 回ハルビン会議.....30
　第 9 回ルレオ＆キルナ会議.....32
　第 10 回青森会議.....34
　第 11 回アンカレッジ会議.....37
　第 12 回長春会議.....39
　第 13 回ヌーク会議.....41
　第 14 回マールドゥ会議.....43
　第 15 回ウランバートル会議.....45
　第 16 回華川会議.....48
　第 17 回札幌会議.....51
　第 18 回瀋陽会議.....54
　第 19 回ロヴァニエミ会議.....57
憲章

快適な冬のまちづくりを目指して

私たち、“冬の都市”に住む市民は、『冬』の寒さや雪を大きな試練と考えがちです。確かにそういう側面もありますが、『冬』が我々に与えてくれる恵みも大きいことを忘れてはいけません。たとえば、雪が豊富な水の供給源として、あるいは、冬の観光資源として、“冬の都市”の市民にとって貴重な財産となっているのです。そこで、『冬は資源であり、財産である』というスローガンのもと、気候や風土の似ている世界の北方都市が集まって共通する課題について話し合うことを目的とする北方都市会議を、1982年に初めて札幌で開催しました。その後も、世界各地のさまざまな都市で会議を開催し、2004 年には、北方地域の都市だけではなく、世界中の“冬の都市”が幅広い視点から『冬』の課題について話し合い、より多くの都市と力を合わせていく必要があると考え、これまでの北方都市のネットワークを世界の冬の都市のネットワークへと強化・拡大し、組織も「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」に改編して、世界冬の都市市長会議を開催してきました。

世界冬の都市市長会議の特徴は、都市経営の最高責任者である市長自らが会議に出席し、それぞれの都市が抱えている課題について市長同士が率直に語り合い、お互いに学び合うことであります。これまで、会議の成果は各都市のまちづくりに役立てられるとともに、近年では、快適な冬のまちづくりに有益な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協力しなければならない課題に、国際社会の一員として取り組んでおります。

2020 年には、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が起こりました。新型コロナウイルス感染症は、厳しい環境をもたらした一方、困難な状況を乗り越えていくための国際都市間の協力の重要性を、更に示唆したものと考えております。

このパンフレットを通じて世界冬の都市市長会の理念と活動をご理解いただき、快適な冬のまちづくりを目指して、世界各地の冬の都市の皆様とともに協力し、歩んでいくことができれば幸いです。多くの都市のご入会をお待ち申し上げております。

世界冬の都市市長会 会長

札幌市長 秋元克広

世界冬の都市市長会のあゆみ

“冬の都市”は、積雪寒冷の厳しい気象条件に適したまちづくりを行わなければならないという共通した課題を抱えています。「世界冬の都市市長会」は、『冬は資源であり、財産である』というスローガンのもと、気候・風土の似ている世界の北方都市が集まり、共通する課題について話し合い、快適な北方都市を創造することを目的に 1981 年に「北方都市会議」を札幌市が提唱したのが始まりです。

1982 年には第 1 回北方都市会議が札幌で開催され、6 カ国 9 都市が参加しました。会議はその後も継続して開催され、アジア、北米、ヨーロッパの北方都市の間に独自のネットワークが形成されました。また、1988 年にエドモントンで開催された第 3 回会議からは、経済界による「冬の見本市」、専門家や学術研究者による「冬の都市フォーラム」が併せて開催されるようになり、「北方都市会議」は、もの、技術、情報が行き交う北方圏における大規模コンベンションに発展しました。

この北方都市間のネットワークをさらに強化し、北方圏全体の発展を目指して北方都市が連帯して行動するために、1994 年の第 6 回アンカレッジ会議において、会員制の組織として「北方都市市長会」が設立され、併せて、会議の名称も「北方都市市長会議」に変更されました。これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を分かち合い、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

さらに、2004 年に再びアンカレッジで開催された第 11 回会議において、冬の課題を抱えるより多くの都市と“快適な冬のまちづくり”に関する課題について話し合うために、会員の対象範囲を北方地域以外の都市にも拡大することとし、会の名称を「世界冬の都市市長会」に変更し、会議の名称も「世界冬の都市市長会議」となって、会議を継続的に開催してまいりました。

2020 年にロヴァニエミで開催予定であった第 19 回会議は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受けて、2021 年 11 月に延期し、市長会議初めてのオンライン形式で開催しました。新型コロナウイルス感染症が収束した後は、対面交流の再開を進めていく予定です。

なお、「世界冬の都市市長会」の会長は、北方都市市長会の設立当初から現在に至るまで札幌市長が務め、札幌市国際部に事務局が置かれています。

冬の都市とは

“冬の都市”とは、「積雪または寒冷という気象条件の下でまちづくりを行う都市」のことを指します。

＊積雪の基準

1 年間のうちで積雪量の最大値が概ね 20cm（8 インチ）以上となること

＊寒冷の基準

1 年間のうちで最も寒い月の平均気温が概ね摂氏 0 度（華氏 32 度）以下となること

この基準はあくまでも目安です。この基準を満たしていなくても、まちづくりを行う上で冬に関する課題を抱えている“冬の都市”であれば本会に入会することができます。

世界冬の都市市長会の意義

国際社会の一員

近年、地球環境問題に代表されるように、世界の国や地域が協力して解決しなければならない課題が増えています。このような課題を解決するためには、国や国際機関だけではなく、地方自治体も『国際社会の一員』としてお互いに協力して課題に取り組んでいかなければなりません。

“冬の都市”もその役割と責任を果たすために、積雪寒冷という環境の中で培ってきた技術やまちづくりのノウハウに関する情報提供を行うなど、同じような課題を抱える会員都市に対して支援、協力を行っていく一方で、先駆的な会員都市から学んだ知恵や経験をまちづくりに活かすなど、『国際社会の一員』としてお互いに協力していきます。

まちづくり

海外都市との交流の成果は、様々な形でそれぞれの都市の『まちづくり』に反映されていますが、それは、必ずしも短期間に数値で表れるものだけではなく、長年の交流の成果が市民生活の向上に役立っているのです。

“冬の都市”が時間をかけてお互いに交流を行い、それぞれの都市の『まちづくり』にとって重要な有形、無形の財産を築いていきます。

フェイス・トゥ・フェイス

インターネットによるコミュニケーションが日常化している現代社会でも、課題を抱える市長同士が実際に集まって率直に話し合うことは重要です。

“冬の都市”の市長同士が、『フェイス・トゥ・フェイス』の交流を通じて、快適な冬のまちづくりに必要な情報や技術を分かち合っていきます。

会員都市一覧

世界冬の都市市長会会員都市 9 カ国 22 都市	2022 年 9 月現在
カナダ (2)	エドモントン、ウィニペグ
中国 (9)	長春、大慶、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、牡丹江、チチハル、瀋陽
エストニア (1)	ヴィームシ
フィンランド (1)	ロヴァニエミ
日本 (1)	札幌
モンゴル (1)	ウランバートル
韓国 (3)	華川、麟蹄、太白
ロシア (3)	マガダン、ノリリスク、ノボシビルスク
アメリカ (1)	アンカレッジ

（　）の数字はメンバー都市数

活動内容

世界冬の都市市長会議

世界冬の都市市長会議は、世界冬の都市市長会の主要事業として 2 年に 1 回開催されます。

会議では、市長同士がまちづくりに関する取り組み事例を紹介し、情報や技術を交換し合うとともに、快適な冬のまちづくりに向けて議論します。

会議には、原則として市長本人が出席します。また、会員都市以外の都市もオブザーバーという資格で会議に出席することができます。

第 18 回世界冬の都市市長会議
（2018 年 9 月中国・瀋陽）

会議の開催市は、立候補した会員都市の中から総会の議決により決定されます。

● 会議開催状況

会　議　名	開　催　市	期　間	参加都市数
第 1 回北方都市会議	札幌	1982/ 2/ 7～10	6 カ国　9 都市
第 2 回北方都市会議	瀋陽	1985/ 9/19～22	6 カ国 10 都市
第 3 回北方都市会議	エドモントン	1988/ 2/13～15	12 カ国 17 都市
第 4 回北方都市市長会議	トロムソ	1990/ 3/ 2～ 4	10 カ国 20 都市
第 5 回北方都市市長会議	モントリオール	1992/ 1/17～21	11 カ国 34 都市
第 6 回北方都市市長会議	アンカレッジ	1994/ 3/ 5～10	10 カ国 30 都市
第 7 回北方都市市長会議	ウィニペグ	1996/ 2/ 9～12	9 カ国 33 都市
第 8 回北方都市市長会議	ハルビン	1998/ 1/15～18	10 カ国 49 都市

第 9 回北方都市市長会議	ルレオ/キルナ	2000/ 2/12～16	10 カ国 26 都市
第 10 回北方都市市長会議	青森	2002/ 2/ 7～10	13 カ国 28 都市
第 11 回北方都市市長会議	アンカレッジ	2004/ 2/18～22	11 カ国 27 都市
第 12 回世界冬の都市市長会議	長春	2006/ 1/15～18	13 カ国 29 都市
第 13 回世界冬の都市市長会議	ヌーク	2008/ 1/18～20	8 カ国 22 都市
第 14 回世界冬の都市市長会議	マールドゥ	2010/ 1/20～22	11 カ国 18 都市
第 15 回世界冬の都市市長会議	ウランバートル	2012/ 1/13～15	7 カ国 13 都市
第 16 回世界冬の都市市長会議	華川	2014/ 1/16～18	4 カ国 12 都市
第 17 回世界冬の都市市長会議	札幌	2016/ 7/27～30	8 カ国 32 都市
第 18 回世界冬の都市市長会議	瀋陽	2018/ 9/12～14	21 カ国 46 都市
第 19 回世界冬の都市市長会議	ロヴァニエミ	2021/11/5、15～16	7 カ国 21 都市

● これまでの市長会議で議論されたテーマ

◇第 1 回札幌会議

・北方における都市づくりの方向
・北方都市の交通問題
・北方都市の住環境整備
・北方の芸術、文化、スポーツ、レクリエーションの振興

◇第 2 回瀋陽会議

・北方都市の設計と建設
・北方都市におけるエネルギー利用と経済発展
・北方都市の緑化と文化活動
・北方都市における水資源の開発・利用と文化遺産の発掘保存

◇第 3 回エドモントン会議

メインテーマ：『ビジネス・オブ・ウィンター』
・経済発展～北方都市の可能性
・環境～健康な冬の都市をめざして

◇第 4 回トロムソ会議

メインテーマ：『暖かな冬の都市～暮らしの向上と経済発展』
・冬の都市交通
・総合的な街づくり
・冬の技術開発
・小都市の挑戦
・冬の都市の芸術・文化

◇第 5 回モントリオール会議

メインテーマ：『冬と調和した暮らし』
・環境
・都市計画
・健康と体力づくり

◇第 6 回アンカレッジ会議

メインテーマ：『未来を求めて北へ』
・コミュニケーション「コミュニケーション・テクノロジーの発達」
・輸送「国際航空産業」
・健康「地球の気候変動」
・ビジネス「冬の観光市場」

◇第 7 回ウィニペグ会議
メインテーマ：『グローバル・リビング～冬の都市の生活と労働、余暇』
・経済振興「北方都市の経済活動の発展をめざして」
・アクセシビリティ「冬の都市における交通とアクセシビリティ」
・余暇とレクリエーション「長期計画における余暇とレクリエーション施策」

◇第 8 回ハルビン会議
メインテーマ：『みんなで多姿多彩の北方都市を創りあげよう』
・高齢者と子どもにとって冬とは
・冬の観光資源の開発と利用
・氷と雪の文化芸術の振興

◇第 9 回ルレオ/キルナ会議
メインテーマ：『冬の都市における持続可能な開発－』
・自然災害時における相互支援体制
・除雪体制と市民参加

◇第 10 回青森会議
メインテーマ：『豊かな北の暮らしを育む～環境・文化・生活～』
・中心市街地の活性化
・環境負荷の小さい都市システム

◇第 11 回アンカレッジ会議
メインテーマ：『未知なる冬への挑戦』
・冬の都市デザイン：サテライトタウンセンター
・市の行政サービスと地域開発におけるスポーツコミュニティーの役割

◇第 12 回長春会議
メインテーマ：『冬における発展』
・冬季における環境問題について
・冬季の市民生活における課題の克服について

◇第 13 回ヌーク会議
メインテーマ：『北極圏における気候変動』
・気候変動と北極圏における若者の生活環境
・冬の都市における地球温暖化対策

◇第 14 回マールドゥ会議
メインテーマ：『北の都市における環境保全の特性』
・冬の都市の多文化社会
・電子情報化社会

◇第 15 回ウランバートル会議
メインテーマ：『冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用』
・熱エネルギーの効率的な利用
・電力の効率的な利用
・冬の都市における大気汚染と対策

◇第 16 回華川会議

メインテーマ：『冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していける有効な方法について』
・資源としての自然を活用した観光コンテンツの充実と観光産業の促進
・自然環境保護活動を通した「冬の都市」のイメージアップ

◇第 17 回札幌会議
メインテーマ：『冬の都市のまちづくり ～ 独自性とその魅力 ～』
・冬を活用したまちづくり
・冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり
・冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり

◇第 18 回瀋陽会議
メインテーマ：『冬の都市の暮らしをより良くしよう！』
・冬のまちづくりにおけるイノベーション
・冬のスマートシティの創造
・冬の都市における持続可能なまちづくり
・幸せで美しい冬の都市を作ろう

◇第 19 回ロヴァニエミ会議
メインテーマ：『寒冷気候の冬の都市における高齢化社会』
【サブテーマ】
・社会的孤立への挑戦と解決策
・高齢者の活躍
・すべての人のためのインフラと建築
【政策研究会トピック】
・冬の都市における観光開発

冬の見本市と冬の都市フォーラム

（１）冬の見本市

市長会議の開催市は、会議の併催事業として冬の見本市を開催することができます。開催市および会員都市の企業や団体が中心となって出展し、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うなど、冬の都市による経済交流の場として重要な役割を果たしています。

冬の見本市
（2012 年 1 月モンゴル・ウランバートル）

冬の見本市
（2016 年 7 月日本・札幌）

（２）冬の都市フォーラム

市長会議の開催市は、会議の併催事業として冬の都市フォーラムを開催することができます。様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行い、一般参加者とともに意見交換を行います。

冬の都市フォーラム
（2016 年 7 月日本・札幌）

実務者会議

会議は原則 2 年に 1 度、事務局都市で開催されることとなっており、次期市長会議の開催計画案や市長会議で市長が議論するテーマの選定、さらに、市長会の運営などに関して実務者レベルで協議を行います。

2019 年実務者会議
（2019 年 11 月ロシア・ノリリスク）

● 会議開催状況

会　議　名	開催市	期　　間	参加都市数
2002 年実務者会議	札幌	2002/ 7/3～4	7 カ国 10 都市
2003 年実務者会議	ウランバートル	2003/ 9/13～16	6 カ国 9 都市
2004 年実務者会議	長春	2004/ 7/15～17	6 カ国 10 都市
2005 年実務者会議	太白	2005/ 7/13～15	8 カ国 12 都市
2006 年実務者会議	ヌーク	2006/ 7/25～27	5 カ国 6 都市
2007 年実務者会議	札幌	2007/ 7/26～28	8 カ国 12 都市
2008 年実務者会議	ﾌﾟﾘﾝｽ・ｼﾞｮｰｼﾞ	2008/ 8/21～22	9 カ国 12 都市
2009 年実務者会議	トロムソ	2009/ 8/19～21	6 カ国 9 都市
2010 年実務者会議	ウランバートル	2010/ 7/8～10	6 カ国 9 都市
2011 年実務者会議	札幌	2011/ 7/29～30	7 カ国 14 都市
2012 年実務者会議	華川	2012/ 8/3～5	6 カ国 13 都市
2013 年実務者会議	札幌	2013/ 8/1～2	7 カ国 15 都市
2015 年実務者会議	札幌	2015/ 7/30～31	6 カ国 16 都市
2018 年実務者会議	札幌	2018/ 1/25～26	5 カ国 15 都市
2019 年実務者会議	ノリリスク	2019/11/14～17	7 カ国 17 都市

小委員会

1990 年にノルウェーのトロムソで開催された第 4 回北方都市会議から、行政実務者および技術者が専門的な技術・情報の交換、調査・研究を行うための機関として小委員会が設置されました。

● これまでの小委員会活動

名　　称	設置期間	事 務 局 都 市
冬季都市環境問題小委員会	1990/3 - 1993/9	札幌
ウィンターネット小委員会	1994/3 - 1998/1	エドモントン
リサイクル小委員会	1994/3 - 2000/2	ルレオ
観光促進小委員会	1996/2 - 2000/2	アンカレッジ
経済振興小委員会	1996/2 - 2000/2	トロムソ
雪対策小委員会	2000/2 - 2004/2	プリンス・ジョージ
自然災害対策小委員会	2000/2 - 2004/2	札幌
持続可能な冬の都市づくり小委員会	2002/2 - 2006/1	青森
テロ対策小委員会	2002/2 - 2006/1	アンカレッジ
冬の都市環境問題委員会	2006/1 - 2010/1	札幌
自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会	2008/1 - 2012/1	アンカレッジ
環境保全小委員会	2010/1 - 2014/1	長春
北極圏デザイン小委員会	2015/2 -	ロヴァニエミ

環境保全小委員会
（2014 年 1 月華川市長会議）

北極圏デザイン小委員会
（2016 年 7 月札幌市長会議）

活性化事業（旧：共同事業）

（１）2004 年の第 11 回アンカレッジ会議において、会員都市が共同で観光 PR や文化交流などの事業に取り組んでいくことが決議されました。それを受け、2006 年まで次のとおり、共同事業を実施いたしました。

● 共同事業実施状況

事　業　名	開催市	期　　間	参加都市数
2002 年共同観光 PR 事業	日本・横浜	2002/ 9/20～22	6 カ国 9 都市
2004 年共同観光 PR 事業	日本・東京	2004/ 9/24～26	4 カ国 6 都市
2005 年共同観光 PR 事業	日本・東京	2005/ 9/22～24	5 カ国 6 都市
2006 年共同観光 PR 事業	中国・北京	2006/ 6/22～24	3 カ国 5 都市

＊ 2002 年共同観光 PR 事業は、アンカレッジ会議での決議に先立って試行的に実施しました。

（２）2007 年の札幌実務者会議において、共同事業を活性化事業に改め、世界冬の都市市長会をより積極的に広報するため、ホームページの充実やパンフレットの作成に力を入れることにしています。

（３）2010 年のウランバートル実務者会議において、韓国・華川郡の「世界冬の都市市長会 PR プロジェクト」の実施が決まり、会員都市から提供を受けた伝統衣装、工芸品等の展示を行いました。華川郡の活性化事業は、2014 年まで実施されました。

伝統衣装や工芸品の展示

シンポジウムの様子

（４）2016 年の札幌市長会議において、札幌市が事務局を務め、「国連広報局年次総会の活用に関する調査研究事業」を実施することが決まりました。

広報

（1）ホームページ

世界冬の都市市長会のホームページ。日本語、英語、中国語（簡体、繁体）、韓国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、フランス語の 9 言語に対応しており、世界冬の都市市長会の活動内容や、最新の市長会議の情報を掲載しています。

ホームページアドレス

https://wwcam.org/

（2）ニュースレター

● **World Winter City News**

世界冬の都市市長会の活動や会員都市の紹介、冬の都市の技術や情報を掲載した広報誌（英語版及び日本語版）。年に 1 回または 2 回発行し、世界の冬の都市や学術・研究機関などに送付しています。なお、この広報誌はインターネット上でも閲覧することができます。

ホームページアドレス（広報誌）

https://wwcam.org/result/promotional_activities/newsletters

国連登録 NGO

世界冬の都市市長会は、1997 年より国連の広報局および経済社会理事会に NGO として登録されています。今後は、その特性を活かして国連との連携を深めていく予定です。

組織と運営

構　成

世界冬の都市市長会は、会員都市をもって構成され、その代表者を市長としています。

役　員

会長 1 名、副会長 3 名（南北米、アジア・オセアニア、ヨーロッパから各 1 名）、理事 2 名、監事 1 名がそれぞれ総会において選出されます。

● 現行役員一覧

会　長　　札幌市長
副会長　　エドモントン市長［南北米地域］
　　華川郡首［アジア・オセアニア地域］
　　ロヴァニエミ市長［ヨーロッパ地域］
理　事　　ロヴァニエミ市長［第 19 回会議開催市］
　　ノリリスク市長［第 20 回会議開催市］
監　事　　ハルビン市長

総　会

総会は、市長会議の開催にあわせて 2 年に 1 回、会長が招集し、市長会の予算、事業計画などを決定する最高の意思決定機関です。

役員会

役員会は、必要に応じ、総会にあわせて 2 年に 1 回、会長が招集します。

事務局

事務局は札幌市総務局国際部内に置かれ、事務局長は札幌市総務局市長室長が務めています。

市長会の運営

市長会の事業執行に必要な経費は、会員の会費、寄附金、繰越金その他の収入をもって支弁します。また市長会の収入は、市長会議、実務者会議、小委員会、活性化事業および事務局の経費として配分されます。

	予算配分率
市長会議関係費	60%
実務者会議関係費	10%
活性化事業関係費	15%
事務局関係費	10%
小委員会関係費	5%

会員になるには

入会手続き

会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会 費

会員都市は、下表のとおり都市人口と国民 1 人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を毎年 1 月 1 日から 3 月 31 日までの期間にアメリカ・ドル建てで払い込まなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

年会費（1 月 1 日～12 月 31 日）

（単位: US$）

人 口 ＼ GDP	0-9,999	10,000 以上
0 - 499,999	$1,000	$2,000
500,000 - 999,999	$1,500	$4,000
1,000,000以上	$2,000	$6,000

会員は、上表により、その国のひとりの国内総生産額と都市人口に応じた年会費を収めるものとする。これらの 2 つの数値は、以下の資料に基づく。

（1） 各国のひとりあたりの国内総生産額（GDP = Gross Domestic Product）
数値の出典： 国連「Statistical Yearbook」

（2） 都市人口（市域の人口であり、都市圏の人口は含まない）
数値の出典： 国連「Demographic Yearbook」
上記資料に人口が未掲載の都市は、各都市の申告に基づく。

会員になると

会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

入会の申込みと連絡先

世界冬の都市市長会事務局 ： 〒060-8611札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
札幌市総務局国際部内
TEL: (011)211-2032　FAX: (011)218-5168
E-mail: wwcam@city.sapporo.jp
https://wwcam.org

主な活動成果（会員都市へのアンケート調査の結果に基づいています）

総体的成果

（１）国際的地位の向上および国際交流の推進

［プリンス・ジョージ］

市長会の活動、特に 2000 年 10 月にはじめて札幌以外で幹事会を開催したことにより、ほかの都市にプリンス・ジョージを知ってもらうことができました。

［ハルビン］

1998 年にハルビンで開催した第 8 回会議を通じて、ハルビンの名前を北方圏の諸都市に PR することができました。

［瀋陽］

1985 年に瀋陽で開催した第 2 回会議を通じて、瀋陽の評価を高め、会員相互の理解と親交を深めることができました。また、国際会議を開催するためのノウハウを蓄積することができました。

［キルナ］

市長会を通じた国際交流の経験自体が大きな成果です。

（２）情報の共有

［チチハル］

共通の自然環境をもつ北方都市間での技術や情報の交換が、様々な分野で役立っています。

［瀋陽］

市長会の活動を通じて、北方都市に共通する課題を解決するための有効な情報を得ることができました。

［キルナ］

同じような気象条件をもつほかの都市がどのようなことをしているのかを学び、必要な時に必要な知識を得ることができるようになりました。

具体的な活用事例（先進事例の研究および実用化）

（１）冬の観光資源の活用

［長春］

2000 年の第 9 回会議に参加するためにキルナを訪れた際、アイスホテルに関心を持ちました。南方から観光客を誘致する施策の参考となりました。

［ハルビン、チチハル］

会員都市を相互に訪問し、自分の都市の冬をさらに魅力的にするための経験や知識を得ることができました。たとえば、札幌から雪や氷を観光資源として活用して成功させた事例を学びました。

［瀋陽］

1998 年にハルビンで開催された第 8 回会議で冬の文化活動を豊かにするための新たなアイディアを学び、氷と雪のプロジェクトを実施しました。

［ウランバートル］

2002 年 2 月に札幌で開催された雪まつりに職員を派遣し、そのノウハウを学び、2003 年にウランバートルではじめて雪まつりを開催しました。

［キルナ］

札幌の雪まつりから雪氷像製作のノウハウを学び、冬にアイスホテルを建て、観光客の誘致を図っています。

（２）人事交流

［プリンス・ジョージ、キルナ、ルレオ］

2000 年にプリンス・ジョージで開催した幹事会を機に、プリンス・ジョージ、ルレオ、キルナおよび米国ミシガン州マーケットと除雪技術の交流に係る盟約を交わし、職員の相互派遣を実施しました。

［プリンス・ジョージ、青森］

雪対策小委員会の事業として、2003 年にプリンス・ジョージと青森の間で除雪担当職員の人事交流を行い、除排雪に関する施策や技術などを学び合いました。

［ウランバートル］

2001 年より、毎年、約 6 か月間札幌市に幹部職員を派遣し、文化、清掃、除雪、行政管理など、様々な分野で研修を受けています。

（３）青少年交流

［青森、ルレオ］

ルレオと青森の小学生がインターネット会議を 2001 年に行い、お互いの町や学校生活、文化、遊びなどを紹介し合い、理解を深めました。

（４）文化交流

［青森］

2002 年に青森で開催した第 10 回会議の併催事業として、北方都市美術展を開催しました。北方地域独特の風土と民族性に育まれた高い芸術性、文化性を再認識するとともに、文化面での相互理解を深めることができました。

（５）基盤整備

［ジャムス］

1996 年に道路調査団をアンカレッジに派遣し、厳冬期に道路の亀裂が発生するのを防止するための道路建設技術と除雪方法を学び、それらを採用しました。

［チチハル］

2001 年にスウェーデンを訪問し、チチハルの都市環境を改善するめに、地熱エネルギー、緑化、住宅建設などのプロジェクトについて商談を進めました。

［キルナ］

プリンス・ジョージで開発された間口除雪(住宅の玄関に雪山を残さない除雪方法)の機材を導入しました。

［青森］

・ナトリウム灯の導入

アンカレッジで使用されている高圧ナトリウム灯を採用し、街路灯の新設および更新の時期にナトリウム灯の導入を推進しています。

・自然エネルギーを利用した雪処理施設の整備

2000 年にルレオ・キルナで開催された第 9 回北方都市市長会議のフォーラムで発表された「海水熱源を利用したロードヒーティング」を実用化し、中心市街地の歩道に敷設しました。また、同じく自然エネルギーである地熱を利用したロードヒーティングを中心市街地へ施工するなど、環境に優しい融雪システムの導入を推進しています。

・市民雪処理モラルアップの推進

民間団体の「北国のくらし研究会」は、プリンス・ジョージで除排雪に従事する行政および民間の作業員の士気高揚を目的として自主的に結成された「スノーフォース(従事者の統一ユニフォームの着用など)」をモデルとして、市民の雪処理に対するモラルの向上を図るため、地域の除排雪などを進んで行っている一般市民の活動を広く知らせ、顕彰する「スノーナイト(Snow Knight)顕彰事業」を実施し、ユニフォームの贈呈などを行っています。

［札幌］

・常緑樹の活用

敷地内への風雪を防ぎ、景観上の美観を保つために、常緑樹を幹線道路の中央分離帯等の公共用地に植樹しています。常緑樹を多用しすぎると敷地内が暗くなるとともに、街路樹に活用した場合、樹木の上に雪が積もり落雪の危険性があることから、用途に応じて常緑樹と落葉樹を使い分けています。

・スパイクタイヤの規制

スパイクタイヤは車の制動に非常に効果がある反面、舗装路面を削りとるため膨大な路面補修費が必要になります。また、騒音や粉じんなどが発生し、環境に悪影響を及ぼすという問題があります。このような状況の下、1982 年に札幌で開催された第 1 回会議においてスパイクタイヤ問題に関するほかの都市の事例が紹介されました。このことに勇気づけられた札幌市は、スパイク問題対策への本格的な第一歩を踏み出し、法律や条例の制定に積極的に取り組んだ後、1990 年にスパイクタイヤの全面禁止を実現させました。

・水力発電の導入

省エネルギー対策として、1984 年から藻岩浄水場で発電を実施しています。発電量は 330kWh（一般家庭 100～150 世帯程度が消費する電気量に相当）。

・ナトリウム灯の導入

省エネルギー対策および降雪時の視認性向上のために、街路灯を水銀灯からナトリウム灯に変更しています。2003 年 4 月現在、ナトリウム灯の球数は、市内の街路灯全球数 96,874 球の約 73%に相当する 70,795 球。ISO14001 推進の観点からも今後も積極的にナトリウム灯の導入を図っていきます。

・スノーホッケーの普及

四季を通した生涯スポーツの振興のために冬でも気軽にできるスポーツとしてスノーホッケーを考案し、「第 1 回札幌市長杯スノーホッケー大会」を 1983 年に開催しました。同大会は継続して開催されており、2003 年には第 20 回大会が開催され、小学生を中心とする男女 57 チーム、580 名の選手が参加。スノーホッケーは冬の子ども達のスポーツとして定着しています。

・歩くスキーの普及

冬季間における市民のレクリエーションおよびスポーツ振興のために、1983 年に中島公園内に歩くスキーの常設コースを整備しました。現在、初心者用の 1km コースが設定されており、12 月から 3 月までスキー板/靴 150 セットの無料貸し出しを実施しています。市内には 14 の常設コースが整備されています。

・公園の冬季開放および木製遊具の導入

冬でも児童が戸外で遊べるように、1983 年より公園への木製遊具の導入と公園の冬季開放を積極的に行い、昭和 60 年代(1985 年～)には多くの公園で冬季間の利用が促進されました。その一方で、児童が遊ぶために除雪されたスペースが雪捨て場として利用されるようになり、遊具の維持コストも含めて、克服しなければならない課題もあります。

・市民と行政の役割分担

公園の効率的な運営を行うとともに、市民参加の機会を拡大するために、市民と行政が協力して公園を管理しており、1 年に 3 回実施する児童公園の清掃、草刈などの業務を町内会に委託しています。

・都市景観形成

快適な都市環境の創造と市民文化の向上を図るためには、建物の色彩、形態などに配慮し、北方都市らしい魅力的な都市景観を形成することが重要です。札幌市は、1982 年に開催された第 1 回会議において紹介された都市景観に関して、ほかの都市の事例を参考として都市景観形成に関する本格的な第一歩を踏み出し、1983 年に「都市景観賞」を創設、1998 年には「都市景観条例」を施行しました。

世界冬の都市市長会
入会申請書

1. 都市名: _____

2. 国　名: _____

3. 市長（町長、村長）: _____

4. 貴市における市長会の担当部局名: _____

   責任者役職名・氏名: _____

   電　話: _____

   FAX: _____

   e-mail: _____

   貴市のホームページ URL: _____

   住所（文書送付先）: _____

   _____

   _____

   _____

5. 人　口: _____（　　年　　月現在）

6. 貴市における現在の最重要課題は何ですか？ _____

   _____

   _____

7. 市長会議で取り上げてほしいテーマは何ですか？ _____

   _____

   _____

   日　付: _____　　市長署名: _____

※貴市の市政概要（Annual Report）を必ず添付してください。

送付先:　世界冬の都市市長会事務局
札幌市総務局国際部内
〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
電話:　(011) 211-2032
FAX:　(011) 218-5168
e-mail: wwcam@city.sapporo.jp

第１回札幌会議

【開催市】　日本・札幌
（市長：板垣武四）
【会　　場】　札幌市教育文化会館
【期　　間】　1982年2月7日～10日
【参加都市】　6カ国9都市
［カナダ］エドモントン;［中国］ハルビン、瀋陽;［フィンランド］ヘルシンキ;［西ドイツ］ミュンヘン;［日本］札幌;［アメリカ］アンカレッジ、ミネアポリス、ポートランド
【オブザーバー参加都市】
北海道内18市3町

【課題と報告都市】
1 北方における都市づくりの方向
①快適な冬の都市
（寒冷地にふさわしい都市景観、建築）
……ミネアポリス
②人口増加への対応と街づくりの基本方向
……エドモントン
③緑地計画　……ミュンヘン
2 北方都市の交通問題
①冬季交通と除排雪　……札幌
3 北方都市の住環境整備
①石炭ガスの使用による都市省エネと環境汚染防止　……瀋陽
②寒地住宅と地域暖房　……ヘルシンキ
③省エネルギー対策　……ポートランド
4 北方の芸術、文化、スポーツ、レクリエーションの振興
①個性ある街づくりと市民文化の振興
……ハルビン
②冬季レクリエーション活動…アンカレッジ
③冬季市民スポーツの振興　……札幌

【会議の成果】
1 積雪寒冷という厳しい自然条件を北方都市だけがもつ利点ととらえ、“冬は資源であり、財産である”という新しい発想を参加者の間に芽生えさせることとなりました。
2 北方都市会議に触発されて、1983年1月、国際的な冬の都市問題の研究組織である「冬の都市協会」Winter Cities Association（WCA）が結成され、北方都市会議との相互補完をうたっています。
3 札幌市では、会議で報告された活用可能と思われる65項目のなかから9項目について、庁内プロジェクト・チームを編成し、下記のとおり順次街づくりに反映させていきました。

札幌市における北方都市会議の成果の活用事例

常緑樹の活用
●街路樹としての活用
原則として幅員7m以上の分離帯等に植栽することとし、試験的に清田通（南郷通～貨物ターミナル間1,400m）及び札幌環状線（東8丁目～豊平間2,000m）の中央分離帯に植栽する。（昭和58年及び59年実施）
●公園への植樹
・植栽本数の約30%を常緑樹とする。
・中島、モエレ沼、平岡の各公園と前田森林公園等の大公園で景観構成と管理上の問題を調査研究する。
●市有施設内の緑化
植栽本数の約30%を常緑樹とする。試験的に平岸配水池及び南区体育館に植栽する。（57年及び58年実施）

スパイクタイヤの規制
使用期間を制限する指導基準を策定し、58年4月から実施し、62年4月に条例を制定する。平成2年6月18日には「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」が制定される。（6月27日施行）

省エネルギー対策
●水力発電の導入
藻岩浄水場で発電を行う。（自家用330KWH）（59年度運転）
●街灯のナトリウム灯化
200w以上のものについて逐次実施していく。また、各種施設やグランド等の照明灯も可能な限りナトリウム灯化をはかる。

冬を意識した施設づくり
●地下公共歩道の設置
地下鉄南北線と東豊線の各さっぽろ駅間に設置する。
●公園の冬季利用
既に木製遊具が設置されている公園については地域の協力を得て各区1～2カ所試験的に排雪する。（57年実施）

●木製遊具の導入
耐用年数が短く管理の強化が必要となるが、地元の要望に応じて新設公園に導入していく。

冬の芸術・スポーツ・レクリエーションの振興

●雪まつりとスポーツ･レクリエーション行事の併催
各区で実施しているスキーの集い、雪中ゲーム大会等のうち可能なものを雪まつりと併せて実施する。(57 年度以降逐次実施)

●氷像のイルミネーション
大通会場（市民の彫刻展)、すすきの会場（氷の祭典）で実施する。
(57 年度以降逐次実施)

●新しいスポーツ･レクリエーションの開発と普及
・スノーホッケーの普及を図る。(57 年度実施)
・雪の彫刻展、競馬場での馬ソリ・スノーモービル・帆かけスキー等の競技会の開催、円山動物園での子供雪まつりなど可能なものを新たに実施する。(57 年度実施)

●歩くスキーの充実
中島公園にある歩くスキーの常設コースの整備充実を図る。(57 年度実施)

市民の役割分担

現在、児童公園の管理を町内会等へ委託しているが、今後は、近隣公園についても検討する。

都市景観

・建物の色彩、形態等について、都市景観委員会の結論を得ながら実施可能なものから実施する。
・都市景観賞を創設する。

郊外緑園

白石区川下に造成する。(61 年春)

スカイウェイ

北口再開発にスカイウェイの導入を検討する。

第２回瀋陽会議

【開催市】　中国・瀋陽
（市長：武　迪生）
【会　　場】　瀋暢市迎賓館国際会議場
【期　　間】　1985 年 9 月 19 日～22 日
【参加都市】　6 カ国 10 都市
［カナダ］エドモントン;［中国］長春、ハルビン、瀋陽;［西ドイツ］ミュンヘン;［イタリア］トリノ;［日本］札幌、滝川;［アメリカ］シカゴ、ポートランド
【オブザーバー参加都市】　中国 6 市

【基調報告】
第 1 回北方都市会議の成果と活用
……札幌市長

【課題と報告都市】
1 北方都市の設計と建設
①統一のとれた計画と総合管理ー古都の効果的な改造方法　……瀋陽
②都市の適正規模と都市計画　……札幌
③都市計画と都市建設（気象条件に左右されない都市環境づくり）
……エドモントン
④都市管理の新しい経済性（交通、大気汚染、省エネ対策）
2 北方都市におけるエネルギー利用と経済発展
①省エネルギーと経済成長
……ポートランド
②北方都市におけるエネルギーの利用と開発　……ミュンヘン
3 北方都市の緑化と文化活動
①緑化システムとその特色　……長春
②緑化と文化活動　……エドモントン
③氷上・雪上で楽しめる活動を計画し、市民の文化生活を活発に　……ハルビン
4 北方都市における水資源の開発・利用と文化遺産の発掘保存
①河川水の利用ー保全と河川空間の活用
……滝川
②都市開発の推進と歴史的遺産　……瀋陽
③トリノ貿易センターを中心としたハイテクセンターと産業廃水処理　…トリノ

【関連行事】
第 1 回国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流「サッカー大会」

【会議の成果】
1 基調報告で発表された札幌市の「第 1 回北方都市会議の成果と活用」は、国際会議を一過性で終わらせない新たな試みとして注目を集めました。
2 学者や研究者、実業家を加えた幅広い討議研究の場となる「冬の都市フォーラム」が、瀋陽会議に参加した都市プランナー、アーニ・フーラトン氏の提唱により、1986 年 2 月エドモントン市で開催され、札幌市長が基調演説「札幌は提唱する」を行いました。
3 瀋陽市では、第 1 回会議で報告された省エネ対策としてのナトリウム灯を空港から迎賓館に通じる街路に設置しています。

第３回エドモントン会議

【開催市】　カナダ・エドモントン
（市長：ローレンス・デコア）
【期　　間】　1988 年 2 月 13 日～15 日
【参加都市】　12 カ国 17 都市
［オーストリア］インスブルック；［カナダ］エドモントン、ハル；［中国］長春、ハルビン、瀋陽；［フィンランド］ヘルシンキ；［フランス］アルベールビル；［西ドイツ］ミュンヘン；［日本］札幌、滝川；［ノルウェー］オスロ、トロムソ；［スウェーデン］ストックホルム；［ソ連］レニングラード；［アメリカ］ミネアポリス；［ユーゴスラビア］サラエボ
【オブザーバー参加都市】　3 カ国 3 市
［カナダ］ハミルトン；［日本］名寄；［イギリス］リーズ

【メイン・テーマ】
ビジネス・オブ・ウィンター

【議題と報告都市】
1 経済発展ー北方都市の可能性
①寒冷気候のもとでの繁栄
……エドモントン
②北方風土に根ざした産業の創造
……札幌
③経済発展へ向けてのスカイウェイ
……ミネアポリス
④冬の観光と 1992 年冬季オリンピック
……アルベールビル
⑤サラエボの経済発展　……サラエボ
2 環境ー健康な冬の都市をめざして
①地域資源の利用（エネルギー効率の高い建築様式の開発と都市環境の改善）
……長春
②2 度のオリンピックを経験した都市
……インスブルック
③世界最大の北の中心地ー都市問題解決のための基幹施設の効果的な開発（住宅、輸送機関、社会生態）
……レニングラード
④道路の安全と環境保護のはざまで巧みな操作　……ミュンヘン
⑤古き良き時代の魅力をもった近代的な首都　……ストックホルム
⑥北方都市の中のサンタクロース国の首都ー冬の都市問題の解決（暖房、交通機能の維持、レクリエーション）
……ヘルシンキ
⑦発展と将来性ー冬を楽しむための諸施策　……オスロ
⑧冬という季節に課せられたこと　…ハル
⑨水資源の利用と保護に関する合理的な開発　……瀋陽
⑩北緯 70 度地帯の冬をいかに暮らすか
……トロムソ
⑪冬の環境保護　……ハルビン
⑫快適な冬の生活環境づくりをめざして
……滝川

【関連行事】
1 88 ウィンターシティーズ・ショーケース
①第 2 回冬の都市フォーラム；16 カ国、45 都市、800 人参加
②第 1 回国際冬の見本市：5 カ国、107 企業・団体出展
③第 1 回冬の都市国際アイディア賞
2 冬のファッションショー
3 ジャパン・ウィーク（日本外務省ほか）
4 北方都市会議と 88 ウィンターシティーズ・ショーケースが、カルガリー冬季オリンピック大会の協賛行事と位置付けられました。

【会議の成果】
1 北方都市会議に併せてウィンターシティーズ・ショーケースが初めて開催され、産学官民が一堂に会する北方圏における冬の最大規模のコンベンションに発展しました。
2 北方都市会議とウィンターシティーズ・ショーケースの同時開催により、北方圏に住む住民、産業界、研究機関などに快適な冬の都市づくりへの関心が高まり、「冬は資源であり、財産である」という“冬の都市運動”がカナダを中心に広がりました。
3 会議では、会議の次期開催市の選考などの調整を目的とする北方都市会議委員会と国際本部事務局の設置が決議され、委員長には札幌市長が、常任委員には瀋陽市長とエドモントン市長が、非常任委員にはサラエボ市長とヘルシンキ市長がそれぞれ就任しました。国際本部事務局は、会議後の 1988 年 4 月に札幌市役所国際部内に設置されました。
4 ウィンターシティーズ・ショーケースの事務局は、国際冬の都市委員会が所管することが決議されました。
5 会議で議論となった融雪剤による環境汚染とスパイクタイヤ粉塵の問題について、カナダ・ハル市の提案により、札

幌市が北方諸都市の状況を調査・分析し、1989 年 3 月、報告書「北方圏諸都市の除雪状況調査」をまとめました。

6 会議用資料として作成されたイギリス「エコノミスト・パブリケーション社」の調査報告書「ザ・ビジネス・オブ・ウィンター」は、ウィンターゾーンを初めて科学的に定義したものであり、また、地理学的、人口学的、経済学的な分析を加え、北方圏にはビジネスチャンスを秘めた大きなマーケットが存在することを明らかにしました。

7 会議にはオリンピック開催市が 5 都市参加し、また共産圏からもレニングラード（現サンクト・ペテルブルク）とサラエボが参加し、東西関係の枠組みを超えた「国際冬の都市連合」的なものに成長する可能性を帯びてきました。

8 北方都市間にネットワークが形づくられ始め、「ストックホルム・ハイテク経済セミナー」(1988 年 4 月、札幌)、「サッポロ・デー・イン・ストックホルム」（1988 年 8 月)、「ノルウェー・トロムソ寒地住宅セミナー」(1988 年 11 月、札幌)が開催されるなど交流分野が広がりました。

9 会議に参加したエドモントンとハルビンが姉妹都市提携をしました。

第４回トロムソ会議

【開催市】　ノルウェー・トロムソ
（市長：エルランド・リアン）
【会　　場】　スペアベンゲン・ノードーノルゲ・フェスティバル・ホール
【期　　間】　1990年3月2日～4日
【参加都市】　10カ国20都市
［オーストリア］インスブルック；［カナダ］カルガリー、エドモントン、ハル、モントリオール；［中国］ハルビン、瀋陽；［グリーンランド］ヌーク；［フィンランド］オウル、タンペレ；［フランス］アルベールビル；［日本］札幌、滝川；［ノルウェー］リレハンメル、オスロ、トロムソ；［スウェーデン］ルレオ、ストックホルム；［アメリカ］アンカレッジ、ミネアポリス
【オブザーバー参加都市】　2カ国2市
［カナダ］イエローナイフ；［イギリス］リーズ

【役員交替】
新非常任委員都市：インスブルック、ミネアポリス

【メイン・テーマ】
暖かな冬の都市ー暮らしの向上と経済発展

【議題と報告都市】
1 冬の都市交通
①市民生活最優先の交通システム…オスロ
②冬のエドモントンを活動的に
……エドモントン
③冬がもたらす都市交通対策の技術…札幌
2 総合的な街づくり
①あまりにも柔軟性が少ないなかで、あまりにも多くのことを計画しすぎていませんか？　……アンカレッジ
②スノー・クレーター（不要な雪の永久処理場）　……ハル
3 冬の技術開発
①北の技術開発　……ルレオ
②都市：その名は冬　……モントリオール
③冬のテクノロジーの開発　……オウル
4 小都市の挑戦
①ヌーク市の都市計画、長期計画…ヌーク
5 冬の都市の芸術・文化
①冬の美しさを享受　……ハルビン
②オリンピックのもつ芸術と文化性
……リレハンメル
③ウィンター・シティーにおける芸術と文化的環境　……ミネアポリス

【その他の報告】
北方圏諸都市の除雪状況調査　…札幌

【関連行事】
1 ウィンターシティーズ・ショーケース
①第3回冬の都市フォーラム：20カ国、1,000人参加
②第2回国際冬の見本市：7カ国、310企業・団体出展
③第2回冬の都市国際アイディア賞
2 第4回北極圏住宅エキスポ

【協賛行事】
トロムソ市では、この年を「トロムソ・ウィンターシティーズ・イヤー'90」とし、この年にトロムソで開催されたコンベンション約30件を北方都市会議とウィンターシティーズ・ショーケースの協賛行事と位置付けました。
ノーザンライト・フェスティバル
世界スピードスケート・スプリント選手権大会
国際冬の道路会議（PIARC）
国連ヨーロッパ経済委員会（ECE）シンポジウム
ノルウェー住宅行政会議
少数民族世界会議
石油・地質会議（OED）90など多数

【文化行事】
会議の期間中演劇と音楽の公演を連日開催

【会議の成果】
1 札幌市が報告した北方圏諸都市の除雪状況調査は、大きな反響を呼び、各都市とも除雪についてさらに協力して調査研究する必要性を認め合い、札幌市の提案により、除雪に起因する環境問題（特に塩害）を調査研究するため、会議参加都市7都市の技術者からなる「冬季都市環境問題研究部会」を設置することが合意され、1991年2月に第1回部会を札幌で開催しました。
2 エドモントン市により、冬の都市問題とその解決法のデータベースを構築することなど、北方都市間での恒常的な情報交流の必要性が提起され、継続して検討することとなりました。
3 北方都市会議の運営や次期会議の準備のため、予備会議を設け、モントリオール会議予備会議を札幌で開催することが決定されました。

第５回モントリオール会議

【開催市】　カナダ・モントリオール
（市長：ジャン・ドーレ）
【会　　場】　モントリオール
・コンベンション・センター
【期　　間】　1992年1月17日～21日
【参加都市】　11カ国34都市
［オーストリア］インスブルック；［カナダ］カルガリー、エドモントン、ハリファックス、ハル、ラバル、モントリオール、オタワ、ケベック・シティ、レジナ、セント・ジョーンズ、ウィニペグ、イエローナイフ；［中国］長春、ハルビン、ジャムス、吉林、チチハル、瀋陽；［チェコスロバキア］プラハ；［グリーンランド］ヌーク；［フィンランド］ヘルシンキ、オウル；［フランス］グルノーブル；［日本］青森、札幌、滝川；［ノルウェー］リレハンメル、オスロ、トロムソ；［スウェーデン］ルレオ、ストックホルム；［アメリカ］アンカレッジ、ミネアポリス
【オブザーバー参加都市】　3カ国13市
［カナダ］ペイ・ジェイムス、ビーコンフィールド、ブッシャーヴィル、シブガモー、グランビー、ラサール、マゴク、マタガミ、モンマニー、ルペンティニー、シェルブルック；［ロシア］ブラーツク；［スウェーデン］キルナ
【後援】
国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）

【メイン・テーマ】
北方都市会議を含めた一連の行事が、「第5回国際冬の都市ビエンナーレ・モントリオール1992」と銘打たれ、統一テーマが「冬と調和した暮らし」となりました。

【議題と報告都市】
冬季都市環境問題研究部会の報告
……札幌、モントリオール
【分科会】
1 環境
2 都市計画
3 健康と体力づくり

【第2回冬季都市環境問題研究部会】
会議の前日に研究部会を開催し、報告書「冬季路面管理と環境の調和」を取りまとめ、札幌市長とモントリオール市長が市長会議で報告しました。

【関連行事】
1 92ウィンターシティーズ・ショーケース
①第4回冬の都市フォーラム：675人参加
②第3回国際冬の見本市：6カ国、211企業・団体出展
③第3回冬の都市国際アイディア賞：42点の出展
2 ビジネス・ワールドワイド
3 コミュニティ・プログラム
①第10回雪祭り
②その他文化・スポーツ行事44件　など
4 ポーラーテック'92
5 '92エキスポ・ハビタット

【協賛】
「第5回国際冬の都市ビエンナーレ・モントリオール1992」は、モントリオール市創建350年、アメリカ大陸到達500年を記念する協賛行事となりました。

【会議の成果】
1 北方都市会議が、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の後援を得ることができ、国際的にも認知されたということができます。
2 トロムソ会議でエドモントン市長から提案された北方都市情報交換プログラムは、モントリオール会議の直前、エドモントン一札幌間でオンラインのテストランを行いました。会議では、このプロジェクトを今後本格的に構築していくことが、参加市長間で合意されました。
3 冬季都市環境問題研究部会の報告書「冬季路面管理と環境の調和」は、塩に代わる低公害融雪剤の開発や流雪・融雪溝、ロードヒーティングといった施設整備など、雪対策を進めていくうえでの指針を示し、すべての北方都市にとって良きガイドブックになると評価されました。また、研究部会を存続させることが合意されました。
4 1992年6月、ブラジル・リオデジャネイロで開催された国連環境・開発会議に向けた「都市と自治体の共同宣言」（リオ宣言）に32市長が個人の資格で賛同する署名をしました。これは、北方都市の市長が、地球環境の保護に対する都市の役割を新たに認識した意義深い宣言となりました。

第６回アンカレッジ会議

【開催市】　アメリカ・アンカレッジ
（市長：トム・フインク）
【会　　場】　ホテル・キャプテン・クック
【期　　間】　1994 年 3 月 5 日～10 日
【参加都市】　10 カ国 30 都市
［オーストリア］インスブルック；［カナダ］カルガリー、エドモントン、ハル、モントリオール、ケベック・シティ、ウィニペグ、イエローナイフ；［中　国］ハルビン、ジャムス、吉林、チチハル、瀋陽；［グリーンランド］ヌーク；［フィンランド］ヘルシンキ；［日本］青森、千歳、札幌、滝川；［ノルウェー］トロムソ；［ロシア］ブラーツク；［スウェーデン］キルナ、ルレオ、ストックホルム；［アメリカ］アンカレッジ、バロー、ベゼル、キナイ半島市、マーケット、バルディーズ

【メイン・テーマ】
未来を求めて北へ

【議題と報告都市】
1 コミュニケーション
基調報告　コミュニケーション・テクノロジーの発達
E. R. カークスラガーAT&T 社副社長
事例報告　……アンカレッジ
2 輸送
基調報告　国際航空産業
……ジェフリー・シェーン弁護士
事例報告　……トロムソ
3 健康
基調報告　地球の気候変動
……サリー・バリウナス博士
（フーバー研究所理事）
事例報告　……ウィニペグ
4 ビジネス
基調報告　冬の観光市場
……デニス・ブランドン
アラスカ観光協会会長
事例報告　……吉林

【北方都市市長会の発足】
1994 年 1 月 1 日をもって北方都市市長会憲章が施行され、3 月 7 日に第 1 回総会が開催されて、役員の選出と事業計画、予算の承認が行われ、北方都市市長会が正式に発足しました。
役員　会長　札幌市長
副会長　瀋陽市長
エドモントン市長
トロムソ市長
常任理事　アンカレッジ市長
ウィニペグ市長
非常任理事　インスブルック市長
監事　ルレオ市長
事務局　札幌市国際部

【研究部会活動】
1 ウィンターネット（北方都市情報ネットワーク）構想　……エドモントン
エドモントンが全体構想を発表して、デモンストレーションを行い、24 都市が同構想を推進するための研究部会を設立し、事務局はエドモントン市が担当し、各都市にウィンターネットを導入するという決議文に署名しました。
2 冬季都市環境問題研究部会報告　…札幌
4 年間に及ぶ調査研究の結果、現時点では費用と効果の点から塩に替わる適当な凍結防止剤が見あたらないため、塩の使用量を削減することが現実的な対応策であるとして、各都市で行われている塩の削減のための取組みを集大成した最終報告書「冬季路面管理の技術事例集」を取りまとめ、会議に提出しました。
3 ゴミ・リサイクル研究部会の新設
各都市へのアンケート調査の結果、除雪問題に替わり新たに取組むべき北方都市共通の最優先課題として「都市ゴミの発生抑制とリサイクル技術」が挙げられたことから、研究部会を設けて調査研究を行い、事務局はルレオ市が担当することが決議されました。

【次々回会議開催市の決定】
会議開催市の決定は、これまで旧北方都市会議委員会と国際冬の都市委員会が北方都市会議とウィンターシティーズ・ショーケースについて別々に開催の呼びかけを行っていたものを、今回からは事業開催のための条件や協議事項などを明示した共通の開催市選考基準を策定して、共同で立候補を呼びかけ、会議期間中に各立候補都市による趣旨説明会に加え、開催市の決定までを行うよう変更になりました。
1998 年の第 8 回北方都市市長会議とウィンターシティーズ・ショーケースの開催市には、中国・ハルビン、カナダ・イエローナイフ、カナダ首都圏（オタワ、ハルなど 6 市 2 団体）の 3 都市が立候補

し、役員の採択によりハルビンに決定しました。

【決議事項】
1 ウィンターネット研究部会を設立し、事務局をエドモントン市が担当すること
2 都市ゴミの発生抑制とリサイクル技術に関する研究部会を設立し、事務局をルレオ市が担当すること
3 モントリオール市が「都市施設の修復・再建」に関する調査研究を行い、次回のウィニペグ会議に報告を行うこと
4 観光を促進するための目的税の使途について事務局が調査を行い、次回のウィニペグ会議に報告を行うこと
5 冬の都市間の通商を維持する北極圏諸国を結ぶ多国間の航空路線開設について、各国政府間で交渉して決定するよう各会員都市が働きかけること
6 冬の都市運動に貢献し、北方都市市長会の創設に功績のあった故板垣武四前札幌市長を称えること
7 冬の都市運動と北方都市市長会に貢献した故武迪生前瀋陽市長を称えること
8 旧北方都市会議委員会非常任委員都市であった旧ユーゴスラビア・サラエボ市の危機的状況が速やかにかつ平和的に解決されるよう訴えること
9 1998 年の市長会議開催市を中国・ハルビン市とすること
10 第 6 回北方都市市長会議を開催したトム・フインク・アンカレッジ市長とアンカレッジ市民を讃えること

【ウィンターシティーズ・ショーケース】
1 第 5 回冬の都市フォーラム: 600 人参加
全体会議とビジネス、コミュニケーション、健康、生活の 4 つの分科会併せて 36 のテーマに世界各国から集まった専門家が講演をし、活発な討議が行われました。
2 第 4 回国際冬の見本市: 6 カ国 135 企業・団体出展、入場者数 1 万 1 千人
日本からは道内を中心に過去最大の 24 企業 10 団体が日本ブース「トップオブジャパン」コーナーとして出展し、市長会議のテーマに連動した融雪や環境・リサイクル関連製品の出展を中心に質の高い技術や製品を紹介し、数多くの商談が成立しました。

【関連行事】
1 第 5 回国際氷彫刻競技会
2 アイディタロッド犬ぞりレース出発式
3 第 7 回アンカレッジ一周スキーレース
4 国際音楽祭
5 ミュージカル
6 ノーザンライツ・オーロラショウ
7 ホームビジット・プログラム

【その他】
総合開会式の席上、北方都市会議の提唱者である故板垣武四前北方都市会議委員会委員長（前札幌市長）の功績を称え、トム・フインク・アンカレッジ市長から記念のメダルが贈られました。

北方都市市長会会員都市　8 カ国 21 都市	
オーストリア:	インスブルック
カナダ:	エドモントン、ハル ウィニペグ イエローナイフ
中国:	長春、ハルビン、吉林 ジャムス、チチハル、 瀋陽
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌、滝川
ノルウェー:	トロムソ
スウェーデン:	キルナ、ルレオ ストックホルム
アメリカ:	アンカレッジ、バロー
	1995 年 6 月 26 日現在

第7回ウィニペグ会議

【開催市】 カナダ・ウィニペグ
（市長：スーザンA. トンプソン）
【会　　場】 ウィニペグ・コンベンションセンター
【期　　間】 1996年2月9日～12日
【参加都市】 9カ国33都市
［カナダ］ウィニペグ、ブランドン、トンプソン、チャーチル、チューロン、エドモントン、セント・アルバート、ストラスコーナ、プリンス・ジョージ、サスカツーン、モントリオール、ケベック・シティ、イエローナイフ、ホワイトホース；［中国］瀋陽、ハルビン、長春、ジャムス；［グリーンランド］ヌーク；［アイスランド］レイキャビク；［日本］札幌、滝川、青森；［ノルウェー］トロムソ、カウトケイノ；［ロシア］ブラーツク；ウスチ・イリムスク；［スウェーデン］ルレオ、キルナ、ストックホルム；［アメリカ］アンカレッジ、マーケット、グランド・フォークス

【メイン・テーマ】
グローバル・リビング一冬の都市の生活と労働、余暇

【議題と報告都市】
1 経済振興
基調報告「北方都市の経済活動の発展をめざして」
……アルヴヒルド・イッターガルド
トロムソ市長
2 アクセシビリティ
基調報告「冬の都市における交通とアクセスビリティ」
……カレ・コンコラ
障害者インターナショナル（DPI）議長
3 余暇とレクリエーション
基調報告「長期計画における余暇とレクリエーション施策」
……ダイアナ・スミス
DMSコンサルティング社長

【役員】

会長	札幌市長
副会長	トロムソ市長
	瀋陽市長（再任）
	エドモントン市長（再任）
常任理事	ウィニペグ市長
	ハルビン市長（新任）
非常任理事	ストックホルム市長（新任）
監　　事	ルレオ市長

【市長会議とフォーラム】
開会式と閉会式には、市長会議参加者と冬の都市フォーラム参加者に対し、合同のセッションが初めて設けられ、基調講演が行われました。
開会セッション：
「アクセシビリティー車椅子で世界一周を体験して」
基調講演者　……リック・ハンセン氏
閉会セッション：
「ウィニペグ・ウィンターシティーズ'96を総括して」
基調講演者
……ノーラ－ケイト・シーモア博士

【報告】
1 ウィンターネット小委員会
……エドモントン
2 ゴミ・リサイクル小委員会　……ルレオ
3 「観光を促進するための目的税」に関する調査　……事務局

【第9回会議開催市の決定】
2000年の第9回北方都市市長会議とウィンターシティーズ・ショーケースの開催には、青森市、スウェーデン・ルレオ市とキルナ市（共同）、アイスランド・レイキャビク市の3団体が立候補し、役員採決によりルレオ市とキルナ市の共同開催に決定しました。

【決議事項】
1 北方都市における観光促進を図るための小委員会を設置し、事務局をアンカレッジ市とすること
2 北方都市における経済振興を図るための小委員会を設置し、事務局をトロムソ市とすること
3 エドモントン市が開発したウィンターネットを北方都市市長会の情報システムとし、会員はその利用促進と情報の蓄積に努力すること
4 今会議の参加都市は、障害者インターナショナル（DPI）からの提言を受け、アクセシビリティを考慮した街づくりに努めること
5 北方都市市長会と冬の都市協会（WCA）は、それぞれの立場を理解し、事務局間の情報交換に努めること

6 北方都市市長会の発展に対して功績のあったジャン・ドーレ前モントリオール市長、エルランド・リアン前トロムソ市長、トム・フィンク前アンカレッジ市長、ロムアルド・ニーシャ前インスブルック市長、そしてジャン・ライマー前エドモントン市長を名誉会員とすること
7 2000年の第9回会議の開催市をルレオ市とキルナ市の共同開催とすること
8 今会議を開催したスーザン A. トンプソン・ウィニペグ市長を讃えること
9 今会議の運営を支援した多くのウィニペグ市民を讃えること

【ウィンターシティーズ・ショーケース】

1 第5回冬の国際見本市
10カ国300企業・団体、入場者数1万人
日本からは北海道内を中心に過去最大の26企業、12団体が参加しました。
2 第6回冬の都市フォーラム
世界各国から専門家が集まり、余暇、保養娯楽、耐久住宅遠隔地域、環境保護、通信、輸送、スポーツなど冬の都市に関する課題・問題について講演し、活発な討議が行われました。

【関連行事】

1 探検家祭
2 芸術文化公演「ノーザン・ライツ
一輝かしき星群」
3 NHLアイスホッケー
4 ホームビジット・プログラム

北方都市市長会会員都市　9カ国20都市	
オーストリア:	インスブルック
カナダ:	エドモントン
	ウィニペグ
	イエローナイフ
中国:	長春、ハルビン、吉林
	ジャムス、チチハル、
	瀋陽
グリーンランド:	ヌーク
アイスランド:	レイキャビク
日本:	青森、札幌、滝川
ノルウェー:	トロムソ
スウエーデン:	キルナ、ルレオ
	ストックホルム
アメリカ:	アンカレッジ
	1997年1月1日現在

第８回ハルビン会議

【開催市】　中国・ハルビン
（市長：曹　広亮）
【会　　場】　ハルビン友誼宮
（ハルビン・フレンドシップ・パレスホテル）
【期　　間】　1998 年 1 月 15 日～18 日
【参加都市】　10 カ国 49 都市
［カナダ］エドモントン、ハッピーバレー・グース・ペイ、プリンス・ジョージ、セント・アルバート、ウィニペグ；［中国］北京、長春、大連、大慶、ハルビン、黒河、フフホト、ジャムス、吉林、鶏西、満州里、牡丹江、青島、チチハル、瀋陽、ウルムチ、西安、牙克石、伊春；［グリーンランド］ヌーク、オールフス；［フィンランド］ケミ、オウル；［日本］青森、旭川、新潟、札幌、滝川；［モンゴル］ウランバートル；［ノルウェー］ノールカップ、トロムソ；［ロシア］チタ、ドウジンカ、インタ、ハバロフスク、ロヴォゼコ、ムルマンスク、ノリリスク、ストレジエヴオイ、ウラジオストク；［スウェーデン］キルナ、ルレオ；［アメリカ］アンカレッジ、ミネアポリス

【メイン・テーマ】
みんなで多姿多彩の北方都市を創りあげよう

【議題と報告都市】
1 基調報告「高齢者と子供にとって冬とは」
……ウィニペグ市長
ルレオ市長
ハルビン市長
2 基調報告「冬の観光資源の開発と利用」
……アンカレッジ市長
瀋陽市長
トロムソ市長
札幌市長
3 基調報告「氷と雪の文化芸術の振興」
……青森市長
キルナ市長

【役員】
会長　札幌市長（再任）
副会長　瀋陽市長
エドモントン市長
トロムソ市長（再任）
常任理事　ハルビン市長
ルレオ市長（新任）
キルナ市長（新任）
非常任理事　ストックホルム市長
監事　アンカレッジ市長（新任）

【報告】
1 ウィンターネット小委員会
……エドモントン
技術的なノウハウを提供する役割を終えたとの最終報告があり、今後、小委員会事務局の役割を受け継ぐ都市がなければ、市長会事務局（札幌）においてインターネットを利用した会員間の情報交換事務を引き継ぐことが決定されました。
2 リサイクル小委員会　……ルレオ
3 経済振興小委員会　……トロムソ
4 観光促進小委員会　……アンカレッジ

【第 10 回会議開催市の決定】
2002 年の第 10 回北方都市市長会議とウィンターシティーズ・ショーケースの開催市は、青森市のみが立候補し、会員都市及び IWCC 代表者の満場一致の承認により、同市に決定しました。

【決議事項】
1 北方都市市長会（IAMNC）と国際冬の都市委員会（IWCC）は統合することとし、具体的なことについては、両事務局が協議をすること
2 北方都市市長会は、国連及び関係する国際団体との情報交換、連携を促進すること
3 ウィンターネットの開発に主導的な役割を果たしてきたエドモントン市に感謝し、会員都市はその成果を積極的に活用すること
4 2002 年の第 10 回北方都市市長会議開催市を青森市とすること
5 今会議の開催を支援したハルビン市民を讃えること
6 今会議を開催した中華人民共和国ハルビン市の曹広亮市長、岳玉泉副市長を讃えるとともに、ハルビン市人民政府に感謝すること
7 中華人民共和国郵電部が今会議のための記念絵葉書を発行し、20 数カ国に向けて送付したことに対して感謝すること

【ウィンターシティーズ・ショーケース】
1 第 6 回冬の国際見本市
8 カ国 91 ブース、入場者 1 万 5 千人
冬季用品、除雪設備と接術、冬季建築材、

省エネルギー技術等を展示し、日本からは北海道内を中心に16企業10団体が参加しました。

2 第7回冬の都市フォーラム
世界各国から専門家が集まり、建築様式と建築材料、食文化と食品の保管、氷雪資源の利用と氷雪文化、住民保健、環境と持続発展の問題について講演し、活発な討議が行われました。

【関連行事】
1 松花江氷上イベント及び寒中水泳、太陽島雪像
2 氷灯祭、国際氷像コンテスト
3 市長会議開催記念「中国切手展」
4 市長会議開催記念コンサート

北方都市市長会会員都市　9カ国21都市	
オーストリア:	インスブルック
カナダ:	エドモントン
	ウィニペグ
	イエローナイフ
	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林
	ジャムス、チチハル、
	瀋陽
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌、滝川
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
スウエーデン:	キルナ、ルレオ
	ストックホルム
アメリカ:	アンカレッジ
	1998年1月18日現在

第９回ルレオ＆キルナ会議

【開催市】　スウェーデン・ルレオ
（市長：ウッラ・エルベプロ）
スウェーデン・キルナ
（市長：ラルズ・トルンマン）

【会　　場】　アルカス・ホール（ルレオ市）
コングレス・センター
（キルナ市）

【期　　間】　2000 年 2 月 12 日～16 日

【参加都市】　10 カ国 26 都市
［ボスニア］ゼニカ；［カナダ］プリンス・ジョージ；［中国］長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、瀋陽；［グリーンランド］ヌーク；［フィンランド］ケミ、オウル；［日本］青森、札幌；［韓国］太白；［ノルウェー］トロムソ、モールセル、バルドゥ；［スウェーデン］キルナ、ルレオ、ストックホルム、エルスビン、ボーデン、ハパランダ、パヤラ、ピーティオ；［アメリカ］アンカレッジ、ミネアポリス

【メイン・テーマ】
冬の都市における持続可能な開発

【議題と報告都市】
1 「自然災害時における相互支援体制」
……ハルビン市副市長
市長間で意見交換を行った後、小委員会を設置して引き続き調査を行い、事務局を札幌市に置くことが決議されました。
2 「除雪体制と市民参加」
……プリンス・ジョージ市長
ヌーク市長
市長間で意見交換を行った後、小委員会を設置して引き続き調査を行い、事務局をプリンス・ジョージ市に置くことが決議されました。

【役員】

会長	札幌市長
副会長	トロムソ市長
	瀋陽市長（再任）
	プリンス・ジョージ市長（新任）
常任理事	ルレオ市長
	キルナ市長
	青森市長（新任）
非常任理事	ストックホルム市長（再任）
監事	アンカレッジ市長

【入退会】
退会：インスブルック（オーストリア）
エドモントン（カナダ）
入会：太白（韓国）
マールドゥ（エストニア）

【会費の改定】
2001 年度（2001 年 1 月 1 日）より、新しい会費額及び会費の支出配分が適用されることが決議されました。

【報告】
小委員会事務局都市から、それぞれ最終報告がなされました。
1 リサイクル小委員会　……ルレオ市
2 観光促進小委員会　…アンカレッジ市
3 経済振興小委員会　……トロムソ市

【第 11 回会議開催市の決定】
中国・長春市及び米国・アンカレッジ市が立候補し、役員都市による理事会での採決の結果、アンカレッジ市が 2004 年の「第 11 回北方都市市長会議」と「ウィンターシティーズ・ショーケース 2004」の開催市として決定しました。

【決議事項】
1 21 世紀に向けた北方都市市長会の新たな展開を図るため、当初の基本理念を再確認するとともに、会員都市が相互に協力し、会員の拡大に努めること
2 小委員会活動をさらに活発化することとし、今回は「自然災害に関する実情及び防災体制」に関する小委員会を設置し、札幌市が事務局を務めること。また、「除雪と市民参加」に関する小委員会を設置し、プリンス・ジョージ市が事務局を務めること。なお、今後、小委員会の調査・研究期間は 4 年以内とすること
3 会員都市は、各都市が持つ情報をウィンターネットに登録するとともに、各都市のホームページをウィンターネットにリンクし、冬の都市に関する情報を収集・提供する。また、会員都市間でウィンターネットを通じた情報交換を密にすること
4 2004 年の第 11 回会議の開催市をアンカレッジ市とすること
5 北方都市市長会の発展に対して功績のあったチェル・ミケルソン前ルレオ市長を名誉会員とすること
6 今会議を開催したウッラ・エルベプロ・ルレオ市長、ラルズ・トルンマン・キルナ市長を讃えるとともに、会議の運営を

支援したルレオ市民、キルナ市民を讃えること

【ウィンターシティーズ・ショーケース】

1 第7回国際冬の見本市

①ルレオ（会場: アルカス・ホール）

入場者: 約8,500人、出展者: 7カ国185ブース

融雪技術、環境・リサイクル、寒冷地における土木・建築技術等の展示

日本からは北海道内および青森から 25企業13団体が参加

②キルナ（会場: コングレス・センター）

入場者: 約 5,000 人、出展者: 13 カ国20団体

ヨーロッパ各国によるフォーラムに関連した展示

2 第8回冬の都市フォーラム

①ルレオ

参加者: 約1,800人

エネルギー、環境、建築技術などについて、専門家による発表および参加者による意見交換が行なわれました。

②キルナ

参加者: 約800人

冬期間の交通、宇宙研究などについて、専門家による発表および参加者による意見交換が行なわれました。

北方都市市長会会員都市 10カ国 22都市	
カナダ:	ウィニペグ
	イエローナイフ
	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林
	鶏西、ジャムス
	チチハル、瀋陽
グリーンランド:	ヌーク
エストニア:	マールドゥ
日本:	青森、札幌、滝川
韓国:	太白
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
スウェーデン:	キルナ、ルレオ
	ストックホルム
アメリカ:	アンカレッジ
	2000年2月16日現在

第10回青森会議

【開催市】 日本・青森
（市長：佐々木誠造）
【会　　場】 ホテル青森、青森市文化会館海扇閣
【期　　間】 2002年2月7日～10日
【参加都市】 13カ国28都市
［カナダ］プリンス・ジョージ、 スーセント・マリー;［中国］長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽;［エストニア］マールドゥ;［フィンランド］ケミ;［グリーンランド］ヌーク;［イラン］テヘラン;［日本］青森、札幌、滝川、函館、千歳、横手;［韓国］太白、平澤;［モンゴル］ウランバートル;［ノルウェー］トロムソ;［ロシア］ハバロフスク、ユジノサハリンスク;［スウェーデン］キルナ、ルレオ;［アメリカ］アンカレッジ

【メイン・テーマ】
豊かな北の暮らしを育む
～環境・文化・生活～

【役員】

会長	札幌市長(再任)
副会長	瀋陽市長
	プリンス・ジョージ市長
	トロムソ市長(再任)
常任理事	青森市長
	アンカレッジ市長(新任)
非常任理事	キルナ市長(新任)
監事	ウランバートル市長(新任)

【入退会】
退会: ウィニペグ、イエローナイフ(カナダ)、ストックホルム(スウェーデン)

【北方都市市長会の活性化】
市長会総会において、市長会の活性化について以下の3点が決議されました。
1 以下の 3 つの柱に基づいて北方都市市長会を活性化する。
　組織の活性化
　既存事業の活性化
　新規事業の創造
2 活性化プランの細部については実務者会議において討議することとし、その第1回会議を2002年度中に開催する。
3 活性化プランのパイロット事業として「共同観光PR」を2002年度中に実施する。

【小委員会の設置】
アンカレッジ市より、北方都市におけるテロ対策について調査する小委員会の設置が提案され、事務局を同市に置き、活動を行うことが決議されました。

【市長会議】
●メインテーマ
「サスティナブル・ウィンター・シティーズ21」
“21世紀における持続的発展が可能な冬の都市”
(1)オープニング・セッション
○基調講演
テーマ:「持続可能な未来を築くために」～施策と実践から学ぶ～
講　師:コリン・ファッジ
英国西イングランド大学建築環境学部長
○発表都市及びテーマ
ジャムス市:「持続可能な発展を目指した環境保護」
キルナ市:「理想的な冬の都市を築くための考え方」
アンカレッジ市:「電子政府 E-Government」
青森市:「コンパクトシティの考え方」
(2)分科会
分科会A: 「中心市街地の活性化」
○発表都市及びテーマ
長春市:「開発途上都市における中心市街地の活性化」
トロムソ市:「トロムソにおける都市開発」
吉林市:「冬の都市、活性化対策」
［冬の都市が目指すべき都市戦略とそれを踏まえた中心市街地のあり方について、概念的、総論的な側面から議論を行った。］
分科会B:「環境負荷の小さい都市システム」
○発表都市及びテーマ
札幌市:「札幌市環境基本計画」
「エネルギーの有効活用事例（都心部の熱供給等)」
滝川市:「エネルギーの有効活用事例（メタンガス発電)」
［環境負荷を低減するために、北方都市ではどのような都市システムを構築したらよいかについて、出席各都市の事例紹介を交えて議論を行った。］
(3)全体会議
○「持続可能な都市づくり」の実現を目

指し、分科会 A 及び分科会 B からの報告を踏まえ、総括的な議論を行うとともに、本市長会議のテーマである「21 世紀における持続的発展が可能な冬の都市」の形成に向け、“共同アピール”を提案しました。

○青森市より、持続的発展が可能な冬の都市づくりに向けて有効な政策を研究する小委員会の設置が提案され、事務局を同市に置き、活動を行うこととしました。

(4) ラウンドアップ・フォーラム

市長会議と冬の都市フォーラムの議論を相互に情報交換し、青森会議の全体総括をするとともに、全体会議で提案した“共同アピール”を発表しました。

【報告】

小委員会事務局から、それぞれ中間報告がなされました。

1 自然災害対策小委員会　　札幌市
2 雪対策小委員会　プリンス・ジョージ市

【第 12 回会議開催市の決定】

中国の長春市のみが立候補を表明し、役員都市による理事会での採決の結果、同市が 2006 年の「第 12 回北方都市市長会議」の開催市として決定しました。

【決議事項】

1 今会議で宣言された『共同アピール』に基づき、北方都市市長会は、今後、会員各都市が「持続的発展が可能な冬の都市」の実現に向けて、協力し合い、最大限の努力をすること
2 北方都市市長会の更なる発展のため、北方都市市長会活性化の基本方針を確認するとともに、実務者会議を開催し、活性化について継続的に協議すること
3 北方都市市長会活性化プランのパイロット事業として、会員都市による共同観光 PR 事業を 2002 年度に実施すること
4 持続的発展が可能な冬の都市づくりに向け有効な政策を研究する小委員会を設置し、その中で具体的な方策を検討していくとともに事務局を日本国青森市に置くこと
5 北方都市におけるテロ対策を研究する小委員会を設置し、事務局をアメリカ合衆国アンカレッジ市に置くこと
6 2006 年の第 12 回北方都市市長会議の開催市を中国長春市とすること
7 今会議を開催した佐々木誠造 青森市長を讃えるとともに、会議の運営を支援した青森市民を讃えること

共同アピール

会員都市は、「持続的発展が可能な冬の都市」の実現を目指すとともに、「冬は資源であり、財産である」という北方都市市長会の基本理念を再確認し、その活動を活性化させるため、協力し合い、最大限努力する

また、北方都市市長会は、北方圏のすべての人々に、持続的発展が可能な都市の建設に取り組むことを呼びかける

2002 年 2 月
北方都市市長会

【ウィンターシティーズ・ショーケース】

1 第 8 回国際冬の見本市
メイン・テーマ
「北のライフスタイル展
～冬の都市のくらしと産業～」
出展者数: 7 カ国 72 企業・団体　339 名
参加者数: 延べ 14,069 名
商談件数: 2,232 件
出展分野: 環境、住宅、氷雪、福祉、情報等

2 第 9 回冬の都市フォーラム
メイン・テーマ
「サスティナビリティの追求」
登録者数: 11 カ国 59 都市　182 名
参加者数: 延べ 3,499 名

○オープニング・フォーラム
テーマ
「人類と地球環境の共生～21 世紀のライフスタイルを見つめる」
講　師
毛利衛 科学技術振興事業団 日本科学未来館館長/宇宙飛行士

○学術フォーラム及び市民フォーラム
・[エネルギー]、[まちづくり]、[生活文化]、[交通] をキーワードに 8 つの学術フォーラムが開催されました。
・「雪国学の可能性」、「KE-YA-GU(仲間)～男女共同参画社会へ向けていい関係」をテーマに 2 つの市民フォーラムが開催されました。

○ヘルスプロモーション・フォーラム
「Health for All Winter Cities(すべての北方都市に健康を)」をテーマに、

基調講演とパネルディスカッションが行われました。

［基調講演］

テーマ

「ヘルシーシティ～ウェルビーイングを高める新しい都市政策」

講　師

イローナ・キックブッシュ

米国エール大学医学部教授

［パネルディスカッション］

コペンハーゲン市長、青森市長、市民団体代表者、市長会議参加者等により討議が行われました。

【主な併催行事】

・北方都市美術展
　1月26日～2月10日
・北方都市写真展
　1月26日～2月10日
・AOMORIウィンターフェスティバル2002
　2月9日～11日
・全国小学生雪合戦選手権大会
　2月10日

北方都市市長会会員都市 10カ国 19都市	
カナダ:	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林 鶏西、ジャムス チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌、滝川
韓国:	太白
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
スウェーデン:	キルナ、ルレオ
アメリカ:	アンカレッジ
	2002年2月10日現在

第11回アンカレッジ会議

【開催市】 アメリカ・アンカレッジ
（市長:マーク・ベギチ）
【会　　場】 ヒルトンホテル
イーガン･シビックセンター
サリバン・アリーナ
【期　　間】 2004年2月18日～22日
【参加都市】 11か国27都市
［カナダ］プリンス・ジョージ、カルガリー、フォートネルソン、ルダック、プリンス・ルパート、スーセント・マリー、イエローナイフ;［中国］長春、ハルビン、ジャムス、チチハル、瀋陽;［エストニア］マールドゥ;［グリーンランド］ヌーク;［日本］青森、札幌、千歳;［韓国］太白;［モンゴル］ウランバートル;［ノルウェー］トロムソ;［ロシア］マガダン;［スウェーデン］キルナ;［アメリカ］アンカレッジ、バロー、エリム、ジュノー、メトラカトラ

【メイン・テーマ】
未知なる冬への挑戦

【役員】

会長	札幌市長
副会長	瀋陽市長（再任）
	プリンス･ジョージ市長（再任）
	トロムソ市長
理事	アンカレッジ市長
	長春市長（新任）
	キルナ市長
監事	ウランバートル市長

【入退会】
入会: ユジノサハリンスク（ロシア）
退会: 滝川（日本）、ルレオ（スウェーデン）

【北方都市市長会の活性化】
総会において市長会の活性化計画が決議されました。
1 冬の課題を抱える多くの都市と、“快適な冬のまちづくり”のための知識と経験を共有するために、会員の拡大を図り、本会の名称を「世界冬の都市市長会」に変更することとしました。
2 活性化計画に基づき、会員都市が一丸となって本会の活性化を図り、冬の都市のネットワークを強化するために最大限努力することとしました。
［主な活性化策］
・共同事業の実施
・個別都市間交流の実施
・テーマの範囲を拡大する
・冬の都市の特性を活かして国連との連携を深める
3 新たな会員の加入を促進するために最大限努力する。

【市長会議】
1 オープニング・セッション
○基調講演
講　師:マーティン・ビューザー
犬ぞりレースで4回の優勝経験
2 分科会
○「冬の都市デザイン：サテライトタウンセンター」
アンカレッジ市が計画している「クリークサイド・タウンセンター」について、アンカレッジ市からプレゼンテーションがあり、それに基づいて地域開発に関する討議を行いました。
○「市の行政サービスと地域開発におけるスポーツコミュニティーの役割」
スポーツコミュニティーと市の役割について、アンカレッジ市からプレゼンテーションがあり、それに基づいて討議を行いました。
3 全体会議
アンカレッジ会議の総括を行うとともに、決議事項案について討議を行いました。

【報告】
小委員会事務局から、それぞれ報告がなされました。
1 最終報告
○自然災害対策小委員会
（事務局：札幌市）
○雪対策小委員会
（事務局:プリンス・ジョージ市）
2 中間報告
○持続可能な冬の都市づくり小委員会
（事務局：青森市）
○テロ対策小委員会
（事務局：アンカレッジ市）

【第13回会議開催市の決定】
中国のチチハル市及びグリーンランドのヌーク市が立候補し、選考理事会により、ヌーク市が2008年の「第13回世界冬の

都市市長会議」の開催市として決定した。

【決議事項】

1. 冬の課題を抱えるより多くの都市と「快適な冬のまちづくり」のための知識と経験を共有するために、会員の対象範囲の拡大を図り、名称を「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」に変更する。
2. 今会議で採択された活性化計画（以下に主な活性化策を列挙）に基づき、会員都市が一丸となって「世界冬の都市市長会」の活性化を図り、冬の都市のネットワークを強化するとともに、持続可能な社会を目指し、新たな会員の加入を促進するために最大限努力する。
   (1) 共同事業を実施する
   (2) 個別の都市間交流を推進する
   (3) テーマの拡大を図り、小さな都市が抱える課題も分かち合う
   (4) 冬の都市としての特性（教育、文化、環境等）を活かし、国連との連携を深める
   (5) 市民、先住民、民間団体、経済界との連携を深める
3. 各会員都市は、分科会「市の行政サービスと地域開発におけるスポーツコミュニティの役割」および「冬の都市デザイン：サテライトタウンセンター」における議論を通じて得たノウハウを「快適な冬のまちづくり」のために最大限活用する。
4. 自然災害対策小委員会および雪対策小委員会が4年間の調査、研究を終了し、最終報告を行った。今後は、「快適な冬のまちづくり」に向けて各会員都市がその成果を最大限活用していく。また、テロ対策小委員会および持続可能な冬の都市づくり小委員会が中間報告を行い、2006年第12回長春会議における最終報告に向けて引き続き調査、研究を行う。
5. 2008年の第13回世界冬の都市市長会議の開催市をグリーンランドのヌーク市とする。
6. 北方都市市長会の発展に対して功績のあった桂信雄前札幌市長を名誉会員とする。
7. 今会議を開催したマーク・ベギチ アンカレッジ市長を讃えるとともに、会議の運営を支援したアンカレッジ市民を讃える。

【冬の見本市】

1 Pac Com（パッコム）2004
出展者数: 5カ国127企業・団体
出展分野: 建設、鉱工業、住宅等

2 インターナショナル・マーケットプレイス
出展者数: 5カ国69企業・団体
出展分野: 文化、工芸、芸術等

【冬の都市フォーラム】

分野：「社会・文化」、「エネルギーと環境」、「建設技術」、「経済と計画立案」、「健康と医療」、「安全確保と安心」、「除雪」、「寒冷地工学」、「地方の福祉サービス提供と都市の発展」、「寒地気候のスパイクタイヤへの影響」
発表者：7か国20都市53名

世界冬の都市市長会会員都市11カ国18都市	
カナダ:	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林 鶏西、ジャムス チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌
韓国:	太白
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
ロシア：	ユジノサハリンスク
スウェーデン:	キルナ
アメリカ:	アンカレッジ
	2004年2月22日現在

第 12 回長春会議

【開催市】　中国・長春
（市長: 祝・業精）
【会　　場】　長春シャングリラホテル
長春欧亜売場
【期　　間】　2006 年 1 月 15 日～18 日
【参加都市】　13 か国 29 都市
[カナダ]ルドゥック、プリンス・ジョージ；[中国]白銀、長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、昆明、綿陽、チチハル、瀋陽、四平、天津、通化、ウルムチ；[エストニア]マールドゥ；[グリーンランド]ヌーク；[日本]青森、札幌、仙台；[韓国]太白；[リトアニア]カウナス；[ノルウェー]トロムソ；[ロシア]マガダン；[セルビア・モンテネグロ]ノビ・サド；[スロバキア]ジリナ；[スウェーデン]カルマル；[米国]アンカレッジ

【メイン・テーマ】
冬における発展

【役員】
会長　札幌市長（再任）
副会長　瀋陽市長
アンカレッジ市長(新任)
トロムソ市長（再任）
理事　長春市長
ヌーク市長(新任)
監事　プリンス・ジョージ市長(新任)

【入退会】
入会: ノボシビルスク（ロシア）、カウナス（リトアニア）
退会: キルナ(スウェーデン)

【市長会議】
テーマ：「冬季における環境問題について」及び「冬季の市民生活における課題の克服について」
(1) 長春市からの基調報告
長春市長など長春市関係者から基調報告が行われ、急速な都市化が進む長春市で、環境汚染、省エネ、都心交通、緑化対策などが大きな都市課題となっている現状と、市長会議を通じて先進事例を学びたい旨の意欲が示されました。

（２）参加都市からの事例紹介
①冬季における環境問題
「冬季における環境問題について」では、プリンス・ジョージ市とカルマル市から、木質ペレットなど木質バイオマスを積極的に活用した結果、二酸化炭素の削減に大きな成果をあげた事例紹介が行われました。
また、プリンス・ジョージ市及び札幌市から、環境に配慮した暖房システムとして、地域冷暖房の紹介が行われました。
さらに、マールドゥ市からは、省エネ対策などを盛り込んだ環境保全計画の説明がありました。
②冬季の市民生活における課題の克服について
「冬季の市民生活における課題の克服について」では、青森市から、寒冷地における冬季の野菜栽培のシステム（寒締め栽培）、及び産業廃棄物であるホタテの貝殻とリンゴジュースの絞りかすを活用した酢酸カルシウムの低公害融雪剤が紹介されました。また、太白市からは、産炭地における産業転換策として、冬のリゾート都市を目指した取組について事例紹介がありました。

（３）全体会議
長春市長及び参加市長から、それぞれ総括の発言があった後、「冬の都市における環境問題の取組事例を調査するための小委員会（事務局：札幌市）」の設置提案及び長春宣言・市長会議決議の提案を行い、全会一致で了承されました。

長春宣言

地球温暖化に代表される地球環境問題は国を超えて各都市が協力して取り組まなければならない緊急の課題である。

寒冷・多雪という気候特性を有する冬の都市では、特に冬の暖房や除排雪、融雪などに消費されるエネルギー量は多大であり、急速な都市化の進展とともに益々地球環境への負荷を著しく高めている。

我々は、地球環境問題への対応として、冬のエネルギー消費量の削減及び環境への負荷の少ない都市活動の実現が、冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを深く認識し、各都市が最大限の知恵と工夫をもってこの問題に取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。

また、世界冬の都市市長会は、上記宣言の理念を広く世界の冬の都市に訴え、その啓発に最大限努力することを併せて宣言する。

【小委員会報告】

二つの小委員会事務局から、それぞれ最終報告がなされました。

〇持続可能な冬の都市づくり小委員会
（事務局：青森市）

〇テロ対策小委員会
（事務局：アンカレッジ市）

【第 14 回会議開催市の決定】

カナダのプリンス・ジョージ市及び中国のチチハル市が立候補し、役員会による多数決の結果、プリンス・ジョージ市が 2010 年の「第 14 回世界冬の都市市長会議」の開催市として決定した。

【決議事項】

1 今会議で採択された「長春宣言」に基づき、市長会議参加都市は地球環境問題の解決に向けて最大限努力し、情報と経験を互いに共有する。
2 冬の都市における環境問題の取組事例を調査するための小委員会を設置し、事務局を札幌市とする。
3 世界冬の都市市長会の発展に対して功績のあったエンフボルド・ミイェゴンボ前ウランバートル市長を名誉会員とする。
4 世界冬の都市市長会の発展に対して功績のあった洪　淳佾（ホン・スンイル）太白市長を本年 6 月から名誉会員とする。
5 2010 年の第 14 回世界冬の都市市長会議の開催市をカナダ・プリンスジョージ市とする。
6 今会議を開催した祝業精（シュク・ギョウセイ）・長春市長を讃えるとともに、会議の運営を支援した長春市民を讃える。

【冬の見本市】

1 日程：2006 年 1 月 15 日～1 月 16 日
2 会場：長春欧亜売場
3 出展者数：7 カ国 200 企業・団体

【冬の都市フォーラム】

1 日程：2006 年 1 月 15 日～1 月 17 日
2 会場：長春シャングリラホテル
3 講演者数：6 カ国 18 都市 28 名

世界冬の都市市長会会員都市11 カ国 19 都市	
カナダ:	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林、鶏西、ジャムス、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌
韓国:	太白
リトアニア：	カウナス
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
ロシア：	ノボシビスルスク、ユジノサハリンスク
アメリカ:	アンカレッジ
	2006 年 3 月現在

第13回ヌーク会議

【開催市】　グリーンランド・ヌーク
（市長: ﾆｺﾗｲ･ﾍｲﾝﾘｯﾁ）
【会　　場】　カテュアク文化センター
【期　　間】　2008年1月18日～20日
【参加都市】　8か国22都市
[中国]長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、瀋陽；[グリーンランド]ヌーク、アシアート、イトコルトルミット、イヒドゥート、ナノルタリーク、パーミュート、カコトック、シシミュート、ウペルナビク、ウマナック；[日本]札幌；[韓国]太白；[リトアニア]カウナス；[ノルウェー]トロムソ、ハンメルフェスト；[米国]アンカレッジ；[デンマーク]オールボー

【メイン・テーマ】
北極圏における気候変動

【役員】

会長	札幌市長
副会長	長春市長(新任)
	アンカレッジ市長
	トロムソ市長
理事	プリンス・ジョージ市長(新任)
	ヌーク市長
監事	プリンス・ジョージ市長

【入退会】
入会: マガダン（ロシア）

【市長会議】
テーマ：「北極圏における気候変動」
（１）青少年を切り口とした地球環境問題

ノルウェー・トロムソ市からは、国際短編映画際「ノルディックユース映画祭（ＮＵＦＦ）」の取組が紹介された。同映画祭の2007年のテーマは「地球温暖化」であり、温暖化問題を扱った短編映画の製作を通じて若者が同問題への認識を深めることを目指した旨説明があった。また、同市は市政執行にあたり青少年をいかに巻き込むかが重要であることを強調しており、「トロムソでは学生が市に政策提言を行い、市と議論する制度を有している」旨の紹介があった。

米国・アンカレッジ市からは、ＡＹＥＡ（環境活動のためのアラスカ青少年グループ、Alaska Youth for Environmental Action）について紹介があり、学校での啓発活動や省エネ運動を展開するなど若者自らが環境問題の解決のため行動している旨説明があった。

議長を務めたヌーク市長から、今後、世界冬の都市市長会で青少年に関する交流や実践を検討してはどうかと問題提起された。

（２）冬の都市における地球温暖化対策

札幌市からは、モエレ沼公園や札幌駅北口の雪冷熱エネルギーの活用事例、下水処理水を活用した融雪システム、さっぽろ学校給食フードリサイクルなどの特徴的な取組が説明された。

ハルビン市からは、エネルギー消費量削減の目標値設定（各工場や施設等における2010年のエネルギー消費量を2005年比で20%削減する）や温暖化対策における多国間協力の重要性について説明があった。

アンカレッジ市からは、「国に先駆けて自治体が率先して温暖化対策を進めており、現在では、700を超える都市が1990年度の温室効果ガス排出量からの７%削減を約束している」旨説明があり、同市の特徴的な取組例の一つとして、街路灯をエネルギー効率の高いＬＥＤに変えている事例が紹介された。

（３）全体会議
市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」の設置が了承された。活動期間予定は１年で、事務局はアンカレッジ市が担当する。
会議の最後に、ヌーク市から提案されたヌーク宣言が満場一致で採択され、ヌーク市長及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）の署名が行われた。

ヌーク宣言

地球規模の気候変動問題は人類にとって最も深刻な脅威の一つであることは論を待たない。気候変動の急速な増加が人類の産業及び工業活動に起因していることについては、世界中の科学者たちによって既に指摘されている。２００７年１１月に発表されたＩＰＣＣ「気候変動に関する政府間パネル」の報告書では、世界の温室効果ガス排出量は今後二、三十年増加し続け、その結果、２１世紀には２０世紀に観測されたものより大規模な温暖化がもたらされると予想されている。

地域住民にとって温暖化の影響が目に見えやすいのは、我々冬を抱える都市であり、そして、最も深刻な影響が発生しているのがグリーンランドおよび北極圏である。冬の気温の上昇は人々のライフスタイルを変化させ、日常生活や伝統文化に対する影響を見逃すことはできない。我々世界冬の都市市長会の参加都市はこれら温暖化の深刻さを、地域住民に最も身近な行政機構の立場として、その声を世界に発信し訴えていく責務を有していることを参加都市の総意としてここに確認する。

寒冷・多雪という気候特性を有する冬の都市では、特に冬の暖房や除排雪、融雪などに消費されるエネルギー量は多大であり、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を増加し、自ら温暖化を進めている自己矛盾を抱えている。つまり、冬の都市こそが国際社会の先頭に立って温暖化問題に取り組むべき立場であることを参加都市が改めてここに確認し、各都市が最大限の英知を結集して取組を行うことを、世界冬の都市市長会として、ここグリーンランド・ヌークで宣言する。

国際社会では、２００７年１２月の気候変動枠組条約締結国会議（ＣＯＰ１３）でポスト京都議定書の２０１３年以降の枠組みの検討が行われたほか、２００８年の北海道洞爺湖サミットでも地球環境問題が主要テーマとなる予定である。我々自治体政府としても、国家レベルの動きを意識しつつ、世界冬の都市市長会が国際社会の先頭に立って取組を進めることを担保するため、以下について会員都市が全力で取り組むことを併せて確認する。

１．先進会員都市の事例を参考に、会員都市では、二酸化炭素等の温室効果ガスの削減目標を設定するなど、温暖化対策の計画策定に努めること。
２．冬の都市政府が自ら率先して省エネルギー運動・環境保全行動を展開し、地域住民の取組を促す役割を積極的に果たすこと。
３．化石燃料からの脱却を図るため、バイオマスや自然エネルギーなどの再生可能なエネルギーの使用を積極的に進めること。
４．世界冬の都市市長会の各会員都市は近隣の冬の都市に温暖化問題の重要性を啓発し、これを通じて地球環境問題に対する冬の都市のネットワークの拡大に努めること。
５．以上の内容については、既に設置されている「冬の都市環境問題小委員会」および今回設置されるアンカレッジ市提案の小委員会で進展状況を確認する。

【小委員会報告】

「冬の都市環境問題小委員会（事務局：札幌市）」から会員都市における環境問題の調査結果について中間報告が行われ、「会員都市では地球温暖化問題への認識が確実に深まっており、特に市民への啓発事業が活発に行われている」等の説明があった。

【第 15 回会議開催市の決定】

市長会議までに立候補都市がなく、募集期間を延長。2008 年 10 月、モンゴルのウランバートル市が立候補し、書面による役員会の結果、同市での開催が決定した。

【決議事項】

1 今会議で採択された「ヌーク宣言」に基づき、市長会議参加都市は地球環境問題の解決に向けて最大限努力し、情報と経験を互いに共有する。
2 気候変動の減少を目的とした自治体の諸活動における環境保全行動の取組事例を調査するための小委員会を設置し、事務局をアンカレッジ市とする。
3 世界冬の都市市長会の発展に対して長年にわたり貢献されてきたアグネス・デイビットセン前ヌーク市長を名誉会員とし、同人に哀悼の意を表する。
4 今会議を開催したニコライ・ヘインリッチ　ヌーク市長を讃えるとともに、会議の運営を支援したヌーク市民を讃える。

【冬の見本市】

1 日程：2008 年 1 月 18 日～1 月 20 日
2 会場：イヌシビック多目的ホール
3 出展者数：6 カ国 39 企業・団体

【冬の都市フォーラム】

1 日程：2008 年 1 月 18 日～1 月 19 日
2 会場：カテュアク文化センター
3 講演者数：5 カ国 13 名

世界冬の都市市長会会員都市11 カ国 20 都市

カナダ:	プリンス・ジョージ
中国:	長春、ハルビン、吉林、鶏西、ジャムス、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌
韓国:	太白
リトアニア:	カウナス
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
ロシア:	ノボシビスルスク、ユジノサハリンスク、マガダン
アメリカ:	アンカレッジ

2008 年 3 月現在

第 14 回マールドゥ会議

【開催市】　エストニア・マールドゥ
（市長: ｷﾞｵﾙｷﾞ･ﾌﾞｽﾄﾛﾌ）
【会　　場】　スイソテル・タリン
【期　　間】　2010 年 1 月 20 日～22 日
【参加都市】　11 か国 18 都市
[中国]長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、瀋陽；[エストニア]マールドゥ、シンディ；[グリーンランド]ヌーク；[日本]札幌；[韓国]太白、華川；[リトアニア]カウナス；[モンゴル]ウランバートル；[ノルウェー]トロムソ、ロングイェールビエン、（ノルウェー住宅国立銀行）；[米国]アンカレッジ；[ラトビア]エーカブピル；[ウクライナ]イリチェフスク

【メイン・テーマ】
北の都市における環境保全の特性

【役員】

会長	札幌市長(再任)
副会長	瀋陽市長(新任)
	アンカレッジ市長(再任)
	マールドゥ市長(新任)
理事	マールドゥ市長(新任)
	ウランバートル市長(新任)
監事	太白市長(新任)

【入退会】
入会：華川（韓国）
退会：プリンス・ジョージ（カナダ）

【市長会議】
テーマ：「北の都市における環境保全の特性」
（１）環境保全活動
最初にギオルギ・ブストロフ・マールドゥ市長より「経済発展を損なうことなく、環境保全を進めることが大事である」との議題趣旨説明があり、ユリ・マーティン氏からマールドゥの現状の報告がありつつ「持続可能な開発の分野での専門家を増やす必要があり、これは世界共通の課題である。」旨の発表があった。引き続き、エリック・テイネマ氏（エストニア政府環境省）より、ムーガ港地区に大気環境管理システムを導入し、住民からの苦情を最低限に抑える努力をしている旨の報告があった。

次に、ハルビン市から、都市の発展に伴い環境問題がますます目立つようになり、「第 11 次 5 カ年計画」期間中に国家レベルの環境保護模範都市になることを目標としている旨の報告があった。

札幌市長からは、札幌市の地球温暖化対策の取り組みとして、雪冷熱、太陽光発電、木質バイオマス等の再生可能エネルギー等の積極的な導入事例やごみ減量とリサイクルの推進の取組の紹介のほか、「環境首都・札幌宣言」や「こども環境サミット」の開催、「国際短編映画祭」における「環境賞」の設置など、世界に向けて環境への取り組みを発信している旨の報告を行った。

最後にアンカレッジ市からは、市内 16000 の街路灯のうち 4000 を LED 街路灯にし、年間 35 万ドルの経費節減となる旨の報告があった。

（２）北の都市の多文化社会・電子情報化社会
22 日午前の市長会議セッションでは、持続可能な開発に関連させて、多文化と電子情報化について事例紹介が行われた。

前半は多文化に焦点を当て、このセッションのモデレーターであるアンヌ・リー・レイマー氏（エストニア政府文化遺産部）から、「文化の安定や誰もが政治に参加できる社会は国の発展に重要であり、持続可能な開発など様々なプロジェクトを進める上での根源である。」旨の報告があった。

後半は電子情報化社会に焦点を当て、マルグス・ピューア氏（エストニア政府経済通信省国家情報システム局）から「電子情報化を進めることは資源の無駄を防ぐことにつながる。」として、エストニアの電子投票など IT ソリューションを利用した公共部門の効率化について報告があった。また、1 万トンの森林の不法投棄ゴミを回収したキャンペーン“Let’s do it”の紹介があった。これは、ボランティアによりゴミの放置場所を調査し、ウェブ上に地図として公開、誰もが現状を認識できるようにし、メディアや俳優も活用

して回収ボランティアを募り、最終的に 5 万人のボランティアが集まり、1 日でゴミを回収したもの。

また、トロムソ市からは、住民から道路や街路灯の破損状況等を住民から情報を得て、市役所のホームページ上で公開しているとともに、当該ホームページで自宅の地下にあるものを確認できるほか、ゴミの収集日も住所を入れれば確認できるようになっているなどの報告があった。

（３）全体会議

市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、「環境保全小委員会」の設置が了承された。活動期間予定は４年で、事務局は長春市が担当する。

会議の最後に、マールドゥ市から提案されたマールドゥ宣言が満場一致で採択され、マールドゥ市長及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）により署名が行われた。

【小委員会報告】

札幌市が事務局である「冬の都市環境問題小委員会（事務局：札幌市）」から４年間にわたる活動の最終報告が行われた。

また、アンカレッジ市が事務局の「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」より、アンカレッジ市の再生可能エネルギーへの取組紹介があったほか、さらに、今後２年間、活動を継続する旨の発表があった。

【第 16 回会議開催市の決定】

韓国の華川郡のみが立候補し、役員会での選考の結果、同郡での開催が決定した。

【決議事項】

１　今会議で採択された「マールドゥ宣言」に基づき、市長会議参加都市は持続可能性をキーワードとした冬の特性を生かしたまちづくりに積極的に取組む。

２　環境保全への取組を調査する小委員会を設置し、事務局を長春市とする。

３　２０１４年第１６回市長会議の開催市を韓国・華川郡とする。

４　世界冬の都市市長会の発展に対して貢献されたマーク・ベギチ前アンカレッジ市長、祝業精（シュク・ギョウセイ）前長春市長及びニコライ・ハインリッヒ前ヌーク市長を名誉会員とする。

５　今会議を開催したギオルギ・ブストロフ　マールドゥ市長を讃えるとともに、会議の運営を支援したマールドゥ市民を讃える。

【冬の見本市及び冬の都市フォーラム】

開催なし。

マールドゥ宣言

「持続可能な開発」という言葉がよく聞かれるようになった。これは、「環境と開発に関する世界委員会」によると「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のことをいい、私たちの環境、資源、そして社会的問題にも密接にかかわっている。

世界冬の都市市長会では、地球温暖化の影響が目に見えやすいのは我々冬の都市である一方、寒冷・多雪という気候特性を有するがゆえに暖房や除排雪等に消費されるエネルギーが膨大であり、地球環境への負荷を高めている自己矛盾を抱えているとの認識の下、冬の都市こそが国際社会の先頭にたって、地球温暖化問題に取組むべき立場であることを確認している。

かけがえのない地球をいかに守って、次世代に引き継ぐのか。2009 年 12 月の気候変動枠組条約締結国会議（COP15）でも注目されたように、国レベルで世界規模の話し合いが進められている。我々自治体政府としても、身近な立場としてこの喫緊の課題に取組まなければならない。このためには、技術的な対応はもちろん、倫理的にかなった決定をする必要がある。持続可能な開発とは資源を合理的に利用し、環境収容能力を勘案することにより、我々そして子どもたちの生活の質を向上させることである。地球と人類の未来のために、地球市民としての共存の意識をもつことが必要であり、そのためには、多文化への理解と尊重が不可欠である。また、電子情報の活用等による住民への情報提供は、住民の意識や知識の向上を促す。市民が公共サービスの利用し、国や企業、他都市の市民と同じ環境でコミュニケーションをとることができるよう、安全に情報利用ができる場を構築していく。電子情報は自然資源・人的資源が限られる中でのまちづくりに有効な手段となる。

世界冬の都市市長会は、このネットワークを生かしながら、次世代によりよい地球環境を残すため、「冬の都市環境問題小委員会」及び「自治体の諸活動における環境保全小委員会」での活動及び提言を尊重しつつ引き続き世界の先頭にたって地球温暖化対策に取り組むとともに、「持続可能性」をキーワードに冬の特性を生かしたまちづくりに積極的に取組む必要性をここに共有し、確認する。

世界冬の都市市長会会員都市10 カ国 20 都市

中国:	長春、ハルビン、吉林、鶏西、ジャムス、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ
グリーンランド:	ヌーク
日本:	青森、札幌
韓国:	太白、華川
リトアニア：	カウナス
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
ロシア：	ノボシビスルスク、ユジノサハリンスク、マガダン
アメリカ:	アンカレッジ

2010 年 3 月現在

第 15 回ウランバートル会議

【開催市】　モンゴル・ウランバートル
（市長: ｺﾞﾝﾎﾞｽﾚﾝ･ﾑﾝﾌﾊﾞﾔﾙ）
【会　　場】　ウランバートルホテル
【期　　間】　2012 年 1 月 13 日～15 日
【参加都市】　7 か国 13 都市
［中国］長春、ハルビン、ジャムス、チチハル、瀋陽；［エストニア］マールドゥ、ヴィームシ；［日本］札幌；［モンゴル］ウランバートル；［韓国］華川、太白；［ロシア］ウランウデ；［米国］アンカレッジ

【メイン・テーマ】
冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用

【役員】

会長	札幌市長
副会長	ハルビン市長（新任）
	アンカレッジ市長
	マールドゥ市長
理事	ウランバートル市長
	華川郡首（新任）
監事	太白市長

【入退会】
入会：ヴィームシ（エストニア）
退会：ヌーク（グリーンランド）、青森（日本）

【市長会議】
テーマ：「冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用」
＜会議 1 日目＞
はじめに、「冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用」をテーマにバッド･ウランバートル市ゼネラルマネージャーからの基調講演が行われ、ウランバートルの熱供給源としてセントラルヒーティングを増やしているが、現在６割が石炭であり、ゲル地区の住民を住宅に移し、さらに石炭の使用を削減していく必要がある等の問題点を指摘した。

セッション 1：
熱エネルギーの効率的な利用
ウランバートル市からは気候と地形の問題もあり大気汚染が深刻であること、セントラルヒーティングを増やしていく計画があること、今後、太陽光等の再生可能エネルギー等を活用していきたい等の報告があった。
華川郡からは、地域のエネルギー源として水力、風力、太陽光、地熱等があるが、特に森林資源（木質ペレット）の活用を図っているとの報告のほか、家庭でのエネルギー消費原因を調査したうえで、市民に公共の交通手段や自転車の利用の呼びかけや、7 つの節電方法を提案し個人でできるエコの取組を推奨している事例が紹介された。

セッション 2：
電力の効率的な利用
はじめにウランバートル市より、冬の厳しい寒さにより冬季の電力消費量が増えるとともに、メンテナンスの問題も生じる等の問題点のほか、大気汚染の悪化が著しいゲル地区に電気暖房を普及させて汚染の緩和を図るには、現在の 5～8 倍に電力供給量を増やす必要があるとの報告があった。
札幌市からは、太陽光発電や LED 街路灯の積極的な導入の報告を行ったほか、木質バイオマスの活用やコージェネレーションシステム、雪冷熱の活用による熱の効率的な利用について報告があった。また、東日本大震災後を踏まえた札幌市の方向性として、原子力発電による電力を太陽光発電などの再生可能エネルギーや省エネルギーの推進によってまかなう方向性を現在検討しているとの報告があった。

＜会議 2 日目＞
会議 2 日目の冒頭、ガンボルド・ウランバートル市副市長より、人口の流入による大気汚染の拡大等の問題点を指摘しつつ、よりよい生活環境を作ることが急務である旨の基調講演があった。

セッション 3：
冬の都市における大気汚染と対策
ウランバートル市からは現状の問題点を指摘しつつ、大気管理局の設置、電気バスの導入、バイオ燃料工場の設置、再

生可能エネルギーへの転換、熱電併給プラントの建設、ゲルに暮らす住民を対象としたアパート購入における低利子ローンの提供等を通して、大気汚染の 6 割削減を目指す旨の報告があった。

マールドゥ市からはオイルシェールの燃焼により発生する灰や二酸化硫黄がエストニアの大気汚染の原因になっていること、マールドゥでも主要産業である鉱物の精製所や化学工場により、歴史的に土壌、大気、水質汚染が見られることについて説明があり、現在、大気汚染のモニタリングを実施し、環境保全に努めている旨の報告があった。

瀋陽市からは、産業の発展と冬期の石炭使用により大気汚染が著しかったが、経済と環境が共存する都市をめざして区画の見直し、汚染物質を大量に排出する工場の閉鎖、モニタリングの強化、環境保護法の制定等を行った結果大気汚染の大幅な緩和が見られたこと、現在でも（特に冬期は）大気汚染は未だ切迫した問題であり取り組みを続けていることなどの報告があった。

また、チチハル市からは、石炭の拡散燃焼を監視するモニタリングステーションの設置、エネルギーの再利用による熱供給、産業汚染のモニタリング、バイクの排ガス規制などにより大気の状態に一定の改善はみられるが、引き続きさらに対策を強化していく旨の報告があった。

- 全体会議

市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、ウランバートル市及び事務局から提案されたウランバートル宣言及び決議が満場一致で採択され、ウランバートル宣言には、同市市長及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）の署名が行われた。

ウランバートル宣言

今、世界各地において、様々な異常気象や自然災害が多発し、多くの尊い人命が失われ、財産を失い、過酷な環境での生活を強いられている。しかし、我々は、この災害による被害を最小限に抑え、より安心・安全な社会を築き上げなければならない。この原動力となるのは、助け合う心、そして、困難に立ち向かう努力と知恵である。

困難な時の温かな支援は、真の友情と平和を育む。我々会員都市は、お互いの友情と様々な分野における可能な限りの協力をここに再確認する。

そして、現在の異常気象の一因である温室効果ガスの排出抑制に努めることが重要である。そのためには、限られた資源を有効に活用しなければならない。我々は、この会議で得たエネルギーと熱の効率的な利用をさらに探求するとともに、市民一人一人が省エネルギーの重要性を認識するよう、積極的に啓発する責務を有する。

我々は、エネルギー消費量の削減及び環境への負荷の少ない都市活動の実現が、冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを再認識し、各都市がこの問題に対し最大限の努力で取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。

【小委員会報告】

アンカレッジ市からは、同市が事務局を担当していた「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」の最終報告としての発表があり、気候変動は会員都市の共通の課題であること、都市部への人口流入がさらに負荷を与えていること、これらに対しそれぞれの自治体が対処していること、アンカレッジは風力発電等の再生可能エネルギーの活用や、家庭エネルギーの助成プログラムの活用等により電力の消費量を大幅に削減するといった電力の有効利用に重点を置いていることなどの報告があった。

さらに、長春市が事務局となっている「環境保全小委員会」が行われ、融雪剤による大気への影響調査結果の報告のほか、残留炭素や砂等の散布など環境負荷の少ない除雪方法の提言等が行われた。

【第 17 回会議開催市の決定】

エストニアのヴィームシ市及び日本の札幌市が立候補し、役員会での採決の結果、札幌市が 2016 年の「第 17 回世界冬の都市市長会議」の開催市として決定した。

【決議事項】

1　今会議で採択された「ウランバートル宣言」に基づき、各都市は次の事項について最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてそ

の取組を報告する。
（１）エネルギーと熱の効率的な利用に関する取組
（２）省エネルギーに関する市民への啓発活動

２　各会員都市は、今回の観光施策の取りまとめを皮切りに、今後も情報交換を積極的に行い、各都市のまちづくりに生かしていくこと。

３　2016年の第17回世界冬の都市市長会議の開催市を札幌市とすること。

４　今会議を開催したムンフバヤル　ゴンボスレン・ウランバートル市長を讃えるとともに、会議の運営を支援したウランバートル市民を讃えること。

【冬の見本市】

１　日程：2012年1月14日～1月15日
２　会場：ビジネス・ディベロップメント・センター
３　出展者数：3カ国33企業・団体

【冬の都市フォーラム】

開催なし。

世界冬の都市市長会会員都市 9カ国19都市	
中国:	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ、ヴィームシ
日本:	札幌
リトアニア：	カウナス
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
韓国	華川、太白
ロシア：	マガダン、ノボシビスルスク、ユジノサハリンスク
アメリカ:	アンカレッジ
	2012年2月現在

第 16 回華川会議

【開催市】　韓国・華川
［郡首：鄭甲澈（ﾁｮﾝ・ｶﾌﾟﾁｮﾙ）］
【会　　場】　西華山（ソファサン）会議場
【期　　間】　2014 年 1 月 16 日～18 日
【参加都市】　4 か国 12 都市
［中国］長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、チチハル、瀋陽；［日本］松本、札幌；
［韓国］華川、麟蹄、太白；
［フィンランド］ロヴァニエミ

【メイン・テーマ】
冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していける有効な方法について

【役員】

会長	札幌市長（再任）
副会長	ハルビン市長
	アンカレッジ市長（再任）
理事	華川郡首
	札幌市長（新任）
監事	麟蹄郡首（新任）

※ ヨーロッパ地域の副会長は、現在選定中

【入退会】
入会：松本（日本）、麟蹄（韓国）
退会：カウナス（リトアニア）

【市長会議】
テーマ：
「冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していける有効な方法について」

＜会議１日目＞
自然環境を保全しつつ、それを「都市の魅力づくり」「観光産業の促進」の２つの視点でまちの活性化にどう生かしていけるのか、各都市の事例を発表しながら学び合いました。

〇セッションＡ：
資源としての自然を活用した観光コンテンツの充実と観光産業の促進
札幌市：1950 年に始まった雪まつりの新たな取り組みとして、昨年の雪まつりで大雪像を使ってプロジェクション・マッピングを実施した。さらにそうした取り組みが認められて 2013 年 11 月にユネスコ創造都市ネットワークへのメディアアーツ分野での加盟が実現した。
華川郡：2003 年に初めて開催されたやまめ祭りは年々来場者数を伸ばし、現在では毎年 100 万人以上が訪れる韓国を代表する冬の祭りになった。祭りの発展には住民の協力が不可欠であり、祭り会場への入場料の一部を華川で使える商品券として還元し、地域経済の活性化にも寄与している。
長春市：1998 年 1 月に初めて「アイス＆スノーフェスティバル」を開催し、今年で 17 回目の開催となる。祭りを盛り上げるため、プロスポーツや市民向けスポーツのイベントと連携し、国際交流による祭りの魅力アップにも力を入れている。祭りの活性化は、観光の活性化に寄与している。
ハルビン市：毎年 1 月に国際氷祭りを開催している。ハルビンの冬は厳しいが、夏のハルビンは過ごしやすく避暑地としても有名である。「東と西が出会う町」ハルビンでは多様な文化を楽しめる。
鶏西市：ロシア沿海地方に接するという特性を生かして、国境観光都市を目指している。鶏西は中国の書道を大きく発展させた地域のひとつであり、歴史的に重要な地でもある。
チチハル市：「中国の丹頂鶴のふるさと」として知られており、丹頂鶴を中心にしたエコツーリズムが観光の柱である。チチハル周辺には朝鮮族、モンゴル族などたくさんの民族が居住しており、これらの居住地を訪れるツアーも人気がある。
瀋陽市：貴重な歴史文化遺産を活用した観光に加え、雪を活用した観光にも力を入れている。冬の祭りや多彩なスキー場、効能豊かな温泉も楽しむことができる。
松本市：観光客数が落ち込む冬の誘客対策として、高さ８メートルにもなる雪の壁を見るツアーなど雪を生かした観光資源の発掘に取り組んでいる。これが地域観光に定着し旅行商品に付加されることで、観光の活性化につながると考えている。

○セッションＢ：
自然環境保護活動を通した「冬の都市」のイメージアップ
ジャムス市：急速な都市化と産業化の進展により、環境への負荷を低減しながら新たな産業を育成していくことが求められている。大気汚染物質の削減目標設定や水資源の汚染防止強化など環境保護の取り組みを進めている。
麟蹄郡：ＥＭ（Effective Microorganisms）菌という人に有為な微生物を活用した環境保全活動を行っている。ＥＭ菌を用いることで低コストで環境汚染源を浄化することができ、家庭でのＥＭ菌利用も促している。

＜会議２日目＞
○環境保全に関する行動目標の最終報告
2012年１月のウランバートル市長会議で、エネルギーと熱の効率的な利用及び省エネルギーに関する市民への啓発活動について、各会員都市が可能な範囲で数値目標を設定して取り組むことが決定された。目標を設定した長春、ジャムス、札幌、華川、太白から、達成に向けた取り組みの成果を報告した。

○市長ディスカッション
世界冬の都市市長会の前身である「北方都市会議」創設の時から、本会は都市が抱える課題について市長同士が対面で率直に語り合い、お互い学び合うことを特徴としている。会員都市の市長が一堂に会するこの機会に「市長ディスカッション」を開催し、市長同士がまちづくりの課題やまちの将来を語り、よりよいまちづくりへのヒントを得ることができた。
ハルビン、瀋陽など中国の都市は、経済発展や都市化の進行により環境保全の必要性が高まっていることに加え、交通渋滞を解消するために、公共交通や道路網など交通インフラの整備も大きな課題となっている。やまめ祭りで有名な華川、サンタクロースのふるさととして知られるロヴァニエミでは、このような地域の観光資源を有効に活用した観光振興策を模索している。
また、松本では目指すべき将来の都市像を「健康寿命延伸都市・松本」として位置づけ、「健康」に視点をおいた施策を展開しており、麟蹄では古くからある市場や地元経済を活性化させるための方策を進めるなど、特色あるまちづくりを展開している。

● 全体会議
市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、華川郡及び事務局から提案された華川宣言及び決議が満場一致で採択され、華川宣言には、同郡郡首及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）の署名が行われた。

華川宣言

やまめの棲む美しい川、そしてその清らかな流れの源となる豊かな自然を有する華川の地において我々は、環境への負荷の少ない都市活動の実現が冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを再認識した。

2004年開催のアンカレッジ会議の参加者は、地球温暖化の進行による北極圏の氷の溶解を目の当たりにした。それ以降、市長会議では温暖化対策、環境保全、エネルギー対策など環境問題をテーマとしてきた。

切迫した温暖化対策への取り組みの必要性を認識することになったアンカレッジの氷河からちょうど10年、韓国最大の冬の祭りで賑わう北漢江を前に我々は、このありのままの自然を維持しながらそれを資源としてまちの活性化にどう生かしていけるかという新たなステージに進むことができた。

温暖化の影響を強く受ける世界の冬の都市にとって、その解決が共通の課題であると強く認識されたことを契機に活動の中心として進められてきた環境問題は、将来にわたっても解決に向けた取り組みの継続が求められる普遍的な課題である。

我々は、未来を引き継ぐ青少年の環境への意識醸成に努めつつ、さらなる段階に向けて今後も温暖化対策やエネルギーのあり方などの環境問題について検討し、世界に向けて発信し続けていくとともに、冬の都市こそが国際社会の先頭に立って取り組むべき立場にあることを改めて確認し、各都市がこの課題に対し最大限の努力で取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。

【小委員会報告】
長春市から、同市が事務局を担当していた「環境保全小委員会」の最終報告としての発表があり、①冬期の大気中に浮遊する微粒子物質(PM)の発生源分析、②融雪剤の使用による環境悪化、という２つの環境保全に関するテーマについて、これまでの調査・分析結果を報告した。

【第18回会議開催市について】
事務局で2018年に開催予定の「第18回世界冬の都市市長会議」の開催市を募集したが、立候補した会員都市はなかった。華川市長会議終了後も引き続き第18回市長会議開催市への立候補募集を継続していく。

【決議事項】
１　今会議で採択された「華川宣言」に基づ

き、各都市は次の事項について最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてその取組を報告する。

（１）エネルギーの転換と削減に関する取り組み

（２）大気汚染などに関する環境保全の取り組み

２　本会は、冬の都市の魅力や活力を高めるための主要なツールとして、会員都市間において互いにまちづくりを学び合う場であるのはもとより、先進都市の優れた施策情報をいち早く獲得し、各会員都市での施策形成に貢献していく。

３　積雪寒冷地という気候条件を同じくする世界の冬の都市が連帯し、共にまちづくりの課題解決に取り組んでいくという本会の特有の活動を国際社会に積極的に情報発信し、本会のプレゼンスを高めていく。

４　世界冬の都市市長会の発展に対して貢献されたアリルド・ハウスベルグ前トロムソ市長、ギオルギ・ブストロフ前マールドゥ市長、ムンフバヤル・ゴンボスレン前ウランバートル市長を名誉会員とする。

５　今会議を開催した　鄭　甲澈　華川郡首を讃えるとともに、会議の運営を支援した華川郡民を讃えること。

【冬の見本市及び冬の都市フォーラム】

開催なし。

世界冬の都市市長会会員都市 8カ国20都市	
中国:	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ、ヴィームシ
日本:	松本、札幌
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
韓国	華川、麟蹄、太白
ロシア：	マガダン、ノボシビスルスク、ユジノサハリンスク
アメリカ:	アンカレッジ
	2014年3月現在

第 17 回札幌会議

【開催市】　日本・札幌
［市長：秋元克広］
【会　　場】　札幌ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ
【期　　間】　2016 年 7 月 27 日～30 日
【参加都市】　8 か国 32 都市
［カナダ］エドモントン；［中国］長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、チチハル、瀋陽；［フィンランド］ロヴァニエミ；［日本］松本、札幌、弘前、金ケ崎、福岡、留萌、苫小牧、美唄、千歳、滝川、恵庭、ニセコ、倶知安、月形、下川；［モンゴル］ウランバートル；［韓国］華川、麟蹄、太白；［ロシア］ノボシビルスク、グブキンスキー、プーロヴスキー、ヤマロ・ネネツ；［デンマーク］コペンハーゲン

【メイン・テーマ】
冬の都市まちづくり　～独自性とその魅力～

【役員】

会長	札幌市長
副会長	アンカレッジ市長
	華川郡首（新任）
	ロヴァニエミ市長（新任）
理事	札幌市長
	瀋陽市長（新任）
監事	麟蹄郡首

【入退会】
入会：ロヴァニエミ（フィンランド）、マールドゥ（エストニア）、エドモントン（カナダ）
退会：マールドゥ（エストニア）、ユジノサハリンスク（ロシア）
※ マールドゥは 2014 年 3 月に退会し、2015 年 6 月に再入会した。

【市長会議】
〇各都市事例紹介
＜テーマ１：冬を活用したまちづくり＞
札幌市：冬季オリンピック・パラリンピックの開催は、まちづくりの観点から、都市基盤や施設の更新、バリアフリー化促進、地域活性化といった、ソフト・ハード両面での効果が期待できる。大会招致をきっかけとして、まち全体をリニューアルするとともに、世界に誇るウインタースポーツ都市としての地位を築いていく。
長春市：国際大会の開催などにより冬のスポーツ振興に努めるとともに、スキー場を整備して市民レベルで普及している。スキー祭や冬季農業博に合わせ貿易商談会を開催し、経済効果を高めている。
エドモントン市：2012 年に「冬の都市戦略計画」を策定した。市民が屋外で楽しく過ごすために公共スペースを改善し、冬季でも屋外でのカフェを楽しめるよう支援している。地域の結び付きを強めるために、公共建築物の色を地域で選定している。
ジャムス市：新たな観光資源とするため、2003 年に国際雪かけ祭を始め、昨年は 20 万人を集める冬のイベントに成長した。極東ロシア人観光客の誘致にも注力している。
ノボシビルスク市：寒冷が厳しい環境下でも実践できる高度なコンクリート建築技術を開発した。また、冬でも夏同様スポーツを楽しむために、木造屋根のドームや屋内サッカー場を建設した。
鶏西市：冬の観光は大きく伸びており、観光産業を通年で計算できるようになった。大規模な植物工場を建設し、冬期間も野菜・果物の流通を可能にして大いに話題となった。開発には環境にも配慮し、大気汚染も大幅に改善した。
華川郡：2003 年に清流のシンボル「やまめ」にフォーカスした冬祭りをスタートし、2012 年には最高の集客となった。ハルビン、ケベックと冬祭り協定を結び、持ち回りでシンポジウムを開催し、更なる発展を模索している。
チチハル市：かつては農業の大敵であった寒冷の気候が、いまは観光を中心に大いなる資源となっている。冬季の雪氷ツアーが全観光収入の半分にまで成長した。市民が参加するイベントや各種冬のスポーツ振興、青少年の教育プログラムなどを構築している。
ロヴァニエミ市：これまでは「サンタランド」として知られる街だったが、屋内・屋外のスポーツ施設を集中・充実させ、スポーツ・ツーリズムの目的地としても認知度が高まっている。スポーツ施設は市民の生活を充実させる場としても活用度が高い。

＜テーマ２:冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり＞
麟蹄郡：あらゆる自然エネルギーを活用し、エネルギーの都市部からの自立を目指しており、2045 年までに自給率 100 パーセントを目標としている。行政のイニシアチブ、企業の協力、市民の省エネ努力を合わせて実現を目指す。
＜テーマ３:冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり＞
松本市：2010 年から食品ロス削減事業を実施している。飲食店で会合の最初 30 分と最後 10 分は席に戻り、料理を残さず食べようというキャンペーンを行っている。家庭では毎月 30 日を冷蔵庫の残菜をチェックする日に設定している。全園児に食べ残しがどのように処理されていくかを見せて、もったいないを教育している。
ハルビン市：水源保全区内に居住する農民に無農薬を推奨し、区内の森林伐採を抑えるために市として損失補てんも行った。水管理に特化した法律を整備した結果、地域の生態系も回復し水環境は大きく改善した。
瀋陽市：2011 年から環境配慮型のビル建設を積極的に推進し、2015 年には新築ビルのうち 33%を占めた。新たな住宅地域の省エネ率も 65%の基準に達した。節水都市の建設を目標の一つに掲げ、新たな技術と製品の開発にも取り組んでいる。
札幌市：都心部では今後、老朽化した建物の更新時期の到来が予想されており、それに合わせて「新たなまちづくり」と「環境エネルギー施策」を一体的に展開していく。熱や電力を効率的に供給するエネルギーネットワークの構築や環境負荷を低減するグリーンビルへの建替などを促進することで、大幅な低炭素化と、非常時においても都市機能を安定して維持できるように、熱や電力の供給を継続できる体制の構築を目指していく。

○環境保全に関する行動目標の最終報告
2014 年 1 月の華川市長会議で、エネルギーの転換と削減に関する取り組み及び大気汚染などに関する環境保全の取り組みについて、各会員都市が可能な範囲で数値目標を設定して取り組むことが決定された。目標を設定した 10 都市が、達成に向けた取り組みの成果を報告した。

○市長ディスカッション
世界冬の都市市長会の前身である「北方都市会議」創設の時から特徴としている、都市が抱える課題について市長同士が率直に語り合い、お互いに学び合っていく時間として実施した。
各都市が発表した事例の経済面に焦点を当て、「まちに経済的な活力を創出するための方策」について、華川、長春、鶏西、松本、麟蹄、ロヴァニエミ、エドモントン、瀋陽、ハルビン、ノボシビルスク、ウランバートルの 11 都市が発表した。

○コペンハーゲン市技術・環境担当市長の講演
モーテン・カベル技術・環境担当市長から、風力やバイオマスを中心としたクリーンエネルギーの積極的な活用をはじめとする環境エネルギー施策において、世界的にもトップクラスの先進都市として知られているコペンハーゲン市の取組事例をご紹介いただいた。

○国連開発計画駐日代表の講演
国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所の近藤哲生代表から、昨年、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の概要と地域開発における地方自治体同士の国際協力をテーマにご講演いただいた。

○札幌開成高校生徒によるまちづくり提言
札幌開成高校の 3 年生から、まちづくりに演劇を活用することの有用性について提言がなされた。

○ウランバートル消防技術支援事業の結果報告
会員都市のモンゴル・ウランバートル市から、市長会ネットワークの活用事例として、札幌市によるウランバートル市への消防技術の支援事業についてご報告いただいた。

○全体会議
市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、札幌市及び事務局から提案された札幌宣言及び決議が満場一致で採択されました。

札幌宣言

34 年間の歴史を有する「世界冬の都市市長会」は、1982 年に「北方都市会議」として、ここ札幌で始まった。
これまで我々は、積雪寒冷地の都市が抱える多様な課題と向き合い、数多くの仲間たちと共に学び合うことで冬の都市の発展に努め、その絆を強固なものにしてきた。

冬の都市には雪や寒さという冬の特徴に加え、四季の変化や際立つ夏の輝きという他の地域にはない魅力がある。これらを生かして、「このまちに住んでいて良かった」と思ってもらえるようなまちづくりを行うことが我々の使命である。
我々は世界冬の都市市長会のネットワークを最大限に活用し、国や立場を超えて互いの文化の違いを理解し、つながり、切磋琢磨し合いながら協力し、こうした「まちづくり」を一層推進していく。

また、冬の都市市長会を通じた我々の活動は、各都市の課題解決のみならず、未来の国や世界を形作る欠かせない要素であり、環境問題など地球規模の課題解決にも寄与していることをここに確認する。

さらに、30年を超える継続的な活動を通じ、国境を越えて信頼関係・協力関係を築いてきた冬の都市のネットワークが、異なる文化や利害が複雑に絡み合ったさまざまな国際的課題の解決の一助になることも期待したい。

よって、我々冬の都市は、さらなる連携を深めるとともに、世界冬の都市市長会が積雪寒冷地の都市を主導する存在となることを目指し、始まりの地であるここ札幌から、共に未来に向かって新たな一歩を踏み出して行くことを宣言する。

【小委員会報告】

2015 年 2 月に設立され、フィンランド・ロヴァニエミ市が事務局を務める北極圏デザイン小委員会が開催された。同小委員会では課題解決の手法としてデザインを活用し、会員都市の成功事例やノウハウを共有することとしている。小委員会の参加都市（エドモントン、長春、ハルビン、札幌、華川、ノボシビルスク、ロヴァニエミ）に事前に各都市の成功事例を収集するためのアンケートを行い、その結果を報告した。

【第 18 回会議開催市について】

フィンランドのロヴァニエミ市が立候補し、総会での採決の結果、同市が 2020 年の第 19 回世界冬の都市市長会議の開催都市として決定した。

【決議事項】

1　今会議で採択された「札幌宣言」に基づき、各都市は次の事項について引き続き最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてその取組を報告する。
（１）エネルギーの転換と削減に関する取り組み
（２）大気汚染などに関する環境保全の取り組み
2　今会議で決定された新たな活性化事業をひとつの手段として、本会の会員都市のさらなる増加を目指し、世界の積雪寒冷地の都市間連携を一層深めていく。
3　2020 年の第 19 回世界冬の都市市長会議の開催都市をロヴァニエミ市とする。
4　世界冬の都市市長会の発展に対して貢献された鄭 甲澈 前華川郡首と上田 文雄 前札幌市長を名誉会員とする。
5　今会議の運営を支援した札幌市民を讃える。

【冬の見本市】

1　2016 ウインターシティーズ・ショーケース
（１）日程：2016 年 7 月 29 日～31 日
（２）会場：札幌駅前通地下広場（チ･カ･ホ）
北 3 条交差点広場（西）
（３）出展者数：5 か国 12 都市・団体
12 ブース
2　ビジネス交流会
（１）日程：2016 年 7 月 28 日
（２）会場：札幌プリンスホテル
国際館パミール
（３）参加企業数
ア 環境関連：3 か国 4 都市 19 社
イ 旅行関連：3 か国 4 都市 9 社・団体

【冬の都市フォーラム】

（１）日程：2016 年 7 月 30 日
（２）会場：共済ホール
（３）内容：市長会の活動紹介、ウランバートルへの消防技術協力、国連の活動紹介

世界冬の都市市長会会員都市
10 か国 21 都市

カナダ:	エドモントン
中国:	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽
エストニア:	マールドゥ、ヴィームシ
フィンランド:	ロヴァニエミ
日本:	松本、札幌
モンゴル:	ウランバートル
ノルウェー:	トロムソ
韓国:	華川、麟蹄、太白
ロシア:	マガダン、ノボシビスルスク
アメリカ:	アンカレッジ

2016 年 10 月現在

第 18 回瀋陽会議

【開催市】　中国・瀋陽
［市長：姜有為(ｷｮｳ･ﾕｳｲ)］
【会　　場】　ニューワールドエキスポ、シャングリラホテル
【期　　間】　2018 年 9 月 12 日～13 日
【参加都市】　21 ヵ国 46 都市
［オーストラリア］ビクトリア州；［アゼルバイジャン］ガラダグ地区；［ベラルーシ］ミンスク；［カナダ］エドモントン、バンクーバー；［中国］長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、牡丹江、チチハル、瀋陽；［フィンランド］ロヴァニエミ、ケミ、ヤムサ；［フランス］クレルモン＝フェアラン、ギヨーム；［ドイツ］バイエルン州、ブレーメン、フライブルク；［日本］松本、札幌、函館、釧路；［ラトビア］ユールマラ；［モンゴル］ウランバートル；［モロッコ］ラバト；［ポルトガル］ブラガ；［韓国］華川、麟蹄、太白、ソウル、仁川、大田、春川、群山、公州、平昌；［ロシア］ノリリスク；［セルビア］ズレニャニン；［ウガンダ］ジンジャ；［ウズベキスタン］アンディジャン州；［イギリス］ベルファスト；［アメリカ］ソルトレイクシティ；［ウルグアイ］フロリダ県

【メイン・テーマ】
冬の都市の暮らしをより良くしよう！

【サブテーマ】
1　冬のまちづくりにおけるイノベーション
2　冬のスマートシティの創造
3　冬の都市における持続可能なまちづくり
4　幸せで美しい冬の都市を作ろう

【役員】

会長	札幌市長（再任）
副会長	エドモントン市長（新任） 華川郡首 ロヴァニエミ市長
理事	ロヴァニエミ市長 瀋陽市長
監事	ハルビン市（新任）

【入退会】
入会：ウィニペグ（カナダ）、牡丹江（中国）、ノリリスク（ロシア）
退会：マールドゥ（エストニア）、トロムソ（ノルウェー）

【市長会議】
（１）　基調講演
〇各都市の発表内容
１　会員都市
瀋陽市：都市部と農村部の不均衡や重工業を中心とした産業からのモデルチェンジ、高齢化の進展に伴う福祉政策などの総合的なまちづくりの取り組みについて
札幌市：「都心エネルギーマスタープラン」に基づく、低炭素化や災害時における持続可能なまちづくり等について、「さっぽろ創成スクエア」の事例を通しての紹介
２　オブザーバー参加都市
ラバト市（モロッコ）：環境にやさしく、持続可能な都市に向けての取り組みについて
ミンスク市（ベラルーシ）：冬季スポーツを中心にした街づくり事例について
ガラダグ地区（アゼルバイジャン）：豊富な観光資源と天然資源を有するアゼルバイジャンで産業の中心都市のひとつとなっている同地区の可能性について
ベルファスト市（イギリス）：2035 年を見据えた都市計画のビジョンについて

（２）　事例発表
〇各都市の発表内容
１　会員都市
ロヴァニエミ市：木材、泥炭、水力を活用したグリーンエネルギーの取り組みと電力使用量に占める割合の推移について
ハルビン市：国内外の文化が共存する都市の冬を彩る数々のイベントについて
エドモントン市：5 年目を迎えた「ウィンターシティ戦略」に伴う市民の冬の行動傾向の変化と今後の改善点について
華川郡：人口 2 万 7000 人の町に世界中から観光客が訪れるヤマメ祭りについて
松本市：健康寿命延伸都市を目標に進める国宝松本城を中心としたまちづくりについて

ノリリスク市：市の経済を支えるノリリスクニッケル社による地域社会への貢献や公共サービス・施設の充実に向けた取り組みについて

２　オブザーバー都市

クレルモン・フェラン市（フランス）：ミシュラン本社を有する産業都市のスマートシティ政策について

バンクーバー市（カナダ）：最も環境にやさしい都市を目指すアクションプランとその進展について

ソルトレイクシティ（アメリカ）：現在の市長就任に伴い新設された経済開発部の役割や電力の完全再生エネルギー化と温室効果ガスの 8 割削減を掲げる市の取り組みについて

〇環境保全に関する行動目標の中間報告

2018 年 1 月の札幌実務者会議において、10 会員都市が取組状況の中間報告をおこなった。

カナダのエドモントン市から 2015 年に採決された環境戦略に基づく再生エネルギーへの転換と大気汚染対策の取り組み、中国の吉林市から吉林省の 3 か年計画に基づく微小粒子状物質 PM2.5 の減少と大気質の改善に向けた取り組み、チチハル市から太陽光・風力・バイオマス発電等を活用したエネルギー転換と省エネの取り組み、モンゴルのウランバートル市から補助金を用いた再生エネルギーやクリーンエネルギー利用の推進についても発表が行われた。

各都市の取り組みは、2020 年のロヴァニエミ市長会議で最終報告が行われる。

【小委員会報告】

フィンランド・ロヴァニエミ市が事務局を務める北極圏デザイン小委員会は、長年担当してきたタルヤ・オウティラ氏がその研究を深めるため市役所を退職しオウル大学に転職したため、後任者が着任するまでの間、一旦活動を休止することを発表した。

【第 20 回会議開催市について】

事務局で 2022 年に開催予定の「第 20 回世界冬の都市市長会議」の開催市を募集したが、立候補した会員都市はなかった。瀋陽市長会議終了後も引き続き第 20 回市長会議開催市への立候補募集を継続していく。

瀋陽宣言

私たち 21 ヶ国 46 都市の代表は、2018 年 9 月、第 18 回世界冬の都市市長会議に出席すべく、瀋陽市に集った。

平和的発展と地域協力の機運を踏まえ、1981 年に提唱され始まった世界冬の都市市長会は、まちづくりの先進事例を共有し、相互理解と信頼を高めるための卓越した枠組みへと発展を遂げた。そして、過去の会議を基盤に、今回の会議では、会員都市のみならず、同じ問題に直面している世界の都市を迎え、この国際ネットワークに新たな活力をもたらしている。

会議のテーマである「冬の都市の暮らしをより良くしよう」は、世界中の人々のより良い生活への願いと真摯な追及だけでなく、行政としてのまちづくりの責任の所在を明示している。緻密な計画、細やかで無駄のない都市建設及び環境に配慮した開発、そして、幸せな冬の都市のための共同努力などのテーマにおいて深い意見交換を重ねた結果、友情の強化、交流と協力の促進、相互理解と信頼の向上などにおいて、見解の一致という成果に到達した。

近代文明の象徴として、都市は世界の繁栄と発展に大きく貢献してきた。グローバル化の急速な進展につれて、都市の国際化には都市の相互依存が伴ってきている。文化的背景や開発段階が異なる国々であって、も、互いの理解を深め、尊重し、ともに発展していく必要がある。私たちは、開拓、包括、協力、互いの利益となる成果をコンセプトに、都市間の友好交流と綿密な協力を促進し、相互信頼を高め、共通の発展を実現することに全会一致で同意するものである。

現状の課題を前にして、私たちは新しい成長の道を切り開き、新たな成長の勢いを生み出すべきである。イノベーション、新産業革命、デジタル経済などの新しい手法を用いて、世界の都市の経済発展につなげていこう。

私たちは、国際交流において最も貴重なパートナーシップの精神をもって前進するべきである。国や都市の状況や開発段階、直面している課題は異なっても、私たちは経済成長の願いとまちづくりのビジョンを共有している。私たちがパートナーシップの精神を貫く限り、すべての困難を克服し、将来の成長のための新しい道筋を描くことができるであろう。

過去は序章である。我々は手を携えて前進し、協力共栄の新しいページを描き続けよう。より高い出発点に立ち、より寛容で開放的な新しい調和の時代を受け入れよう。そして、私たちのまちをより美しくし、市民のためにより幸せな生活を創造していくことをここに宣言する。

【決議事項】

1　各都市は次の事項について引き続き最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてその取組を報告する。

（１）エネルギーの転換と削減に関する取り組み

（２）大気汚染などに関する環境保全の取り組み

2　積雪寒冷地という気候条件を同じくする世界の冬の都市が連帯し、共にまちづく

りの課題解決に取り組んでいくという本会の特有の活動を国際社会に積極的に情報発信し、会員都市のさらなる増加を目指すとともに本会のプレゼンスを高めていく。

３　市長会議の集客交流効果を活用し、併催事業のコンテンツの拡充やオブザーバー参加都市の拡張を図ることで、市長会の多様性を拡大させ、知見のストックを高めるとともに、学術分野、産業分野にとっても参加意義の深いものにしていく。

４　今会議を開催した　姜　有為（キョウユウイ）瀋陽市長を讃えるとともに、会議の運営を支援した瀋陽市民を讃えること。

【併催イベント】

〇世界冬の都市商工業界交流会･プロジェクト発表会と都市・観光 PR ショーケース

9 月 12 日には、アフリカ、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの国と地域から 50 以上の団体の代表者が参加してプロジェクト発表会が行われたほか、個別商談会も実施された。また、9 月 13 日には、日本都市・観光 PR ショーケースと題したイベントも行われ、参加都市や現地メディア、旅行会社に向けて函館市、釧路市、松本市、札幌市の魅力を発信した。

〇瀋陽国際友好の夕べ

オペラ劇場である盛京グランドシアターで、観客と出演者あわせて 1000 人以上の規模で瀋陽国際友好の夕べが開催された。中国の伝統的な音楽や雑技等の芸能、子どもたちやミュージシャンによる各国の歌や音楽が披露されたほか、瀋陽在住の外国人による、外国人の目から見た瀋陽市の魅力も紹介された。

〇市内観察・ウォーキングイベント

2008 年北京オリンピックのサテライト会場としてサッカー競技が行われ、現在も競技やコンサート会場として利用されている瀋陽オリンピック・スポーツセンター・スタジアムを視察したほか、瀋陽市の「母なる川」と称される渾河の北岸に整備された五里河公園を散策し、市民グループが健康維持のために武術、太極拳、太極扇などの運動を行っている様子を見学しました。

【冬の都市フォーラム】

開催なし。

世界冬の都市市長会会員都市 9 か国 22 都市	
カナダ:	エドモントン、ウィニペグ
中国:	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、牡丹江、チチハル、瀋陽
エストニア:	ヴィームシ
フィンランド:	ロヴァニエミ
日本:	松本、札幌
モンゴル:	ウランバートル
韓国:	華川、麟蹄、太白
ロシア:	マガダン、ノボシビルスク、ノリリスク
アメリカ:	アンカレッジ
	2018 年 8 月現在

第 19 回ロヴァニエミ会議

【開 催 市】 フィンランド・ロヴァニエミ
［市長：ウラ-キルシッカ ヴァイニオ］
【形　　式】 オンライン
【期　　間】 2021 年 11 月 5 日、15～16 日
【参加都市】 7 ヵ国 21 都市
［カナダ］エドモントン；［中国］長春、大慶、ハルビン、ジャムス、吉林、チチハル、瀋陽；［フィンランド］ロヴァニエミ；［日本］函館、鹿児島、北広島、北九州、松本、札幌；［モンゴル］ウランバートル；［韓国］華川、春川；［ロシア］ハバロフスク、ノリリスク、ノボシビルスク

【メイン・テーマ】
寒冷気候の冬の都市における高齢化社会

【サブテーマ】
1　社会的孤立への挑戦と解決策
2　高齢者の活躍
3　すべての人のためのインフラと建築

【政策研究会トピック】
冬の都市における観光開発

【役員】

会長	札幌市長
副会長	エドモントン市長
	華川郡首（再任）
	ロヴァニエミ市長（再任）
理事	ノリリスク市長（新任）
	ロヴァニエミ市長
監事	ハルビン市

【入退会】
入会：大慶（中国）
退会：松本（日本）

【市長会議】
（1）　政策研究会
トピック：冬の都市における観光開発
〇各都市の発表内容
ノリリスク市：ロシア・タイミル半島の観光業発展のために作られた北極圏観光クラスターや自然のロケーションを生かした冬の観光、多言語の観光デジタルツールなどについて
エドモントン市：世界有数の冬の都市を目指すための戦略や冬の観光体験の創出、観光客誘致の広報キャンペーンについて
ロヴァニエミ市：新型コロナウイルス感染症の観光への影響と今後の観光について
札幌市：北海道大学と北部地域の大学との観光に関する共同教育プロジェクトについて
瀋陽市：瀋陽市で親しまれている雪と氷のスポーツ、国際氷雪祭、世界文化遺産などの観光資源について
ウランバートル市：伝統文化などを活用した冬の観光の発展・課題・改善策について

（2）　分科会１
サブテーマ：
すべての人のためのインフラと建築
〇各都市の発表内容
ロヴァニエミ市：循環型経済によるすべての人のためのインフラと建築の実現や季節ごとの課題対策などについて
ウランバートル市：人口増加による環境汚染や交通渋滞などの課題と都心部への人口集中を防ぐための都市システムの導入などについて
華川郡：地球温暖化の気候下でも冬祭りの開催を可能にするインフラ構築について
ノリリスク市：社会的・経済的発展を促す大規模投資とノリリスク市の都市改修計画ついて

（3）　分科会２
サブテーマ：
社会的孤立への挑戦と解決策、高齢者の活躍
〇各都市の発表内容
ロヴァニエミ市：高齢者の代弁者であるロヴァニエミ市高齢者協議会の役割と活動内容について
札幌市：高齢化の状況と日本の社会保障制度、札幌市の高齢者活躍のための高齢者支援策について
瀋陽市：高齢者が社会で活躍できる政策などの体制づくり、高齢者の社会参加を促す情報発信の拡大と広報活動について

【小委員会報告】
フィンランド・ロヴァニエミ市が事務局を務める北極圏デザイン小委員会は、課題解決の手法としてデザインを活用し、会員都市の成功事例やノウハウを学び合うため、2015

年2月に設立され、活動してきた。これまでの活動についてロヴァニエミ市から最終報告が行われた。

ロヴァニエミ宣言

世界冬の都市市長会は、北方地域に位置する20以上の都市が参加する活発なネットワークであり、その活動は40年の歴史をもつ。

ここ数十年で、我々会員都市は、世界の大きな変化を良い意味でも悪い意味でも経験した。グローバル化により、人々の距離は縮まり、物流のつながりが強化され、モノや人の流れが世界のあらゆる場所に集まるようになった。一方で、地球温暖化は気候危機へと加速し、私たちの未来を守るためには、新たな発想と具体的な行動が求められている。このような課題に直面しながらも、我々冬の都市は、確固とした気持ちで未来を見据えている。

この2年間、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威に支配され、人的交流に大きな影響を与えた。また、私たちはオンラインを活用してコミュニケーションがとれることを学んだ。しかし、対面式の交流のすべてがオンラインでのコミュニケーションに代わることはない。今回初めて、市長会議及び総会をオンライン形式で開催したが、これが最後のオンライン開催となり、近い将来に対面で集えるようになることを強く願う。

第19回世界冬の都市市長会議のテーマは、「寒冷気候の冬の都市における高齢化社会」であり、パンデミック前にこのテーマが決定していた。しかし、パンデミック禍では人々、特に高齢者の孤独感や孤立感がより顕著となった。どの都市もインフラ、建築、都市計画という課題に直面する。さらに冬の都市においては、気候的な要因や冬の状況により、これらの課題は特殊な性質を持ち合わせる。

このような課題を踏まえ、我々冬の都市は、協力関係を強固にし、気候変動を抑制するための解決策を探り、都市計画を改善し、高齢化社会のニーズをより考慮していくことをここに宣言する。私たちは、冬の都市市長会のパートナーシップ精神に基づき、互いに敬意を払い、互いの成功への道を模索しながら、共に力を合わせていく。

【決議事項】

1　新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中で、オンライン形式という新しい手法を駆使し、各都市の取り組みを共有できたことは、世界冬の都市市長会がこれまで培った強い絆があったからこそ実現できたものである。今後の対面交流の再開を見据えて、ここに市長会の結束を再確認する。

2　今会議で新たに実施した分科会をひとつの手段として、今後も市長が議論を活発に行う取組を実施し、会議内容の充実を図る。

3　今会議で新たに実施した政策研究会をひとつの手段として、行政の実務者の他、民間企業、学術研究者等にとって、魅力的なトピックについて幅広な議論を行うことで、参加者や会員都市の増加を図り、市長会の存在価値を高めていく。

4　各都市は次の事項について引き続き最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてその取組を報告する。

（1）エネルギーの転換と削減に関する取り組み

（2）大気汚染などに関する環境保全の取り組み

5　今会議を開催したUlla-Kirsikka Vainio（ウラ-キルシッカ ヴァイニオ）ロヴァニエミ市長を讃えるとともに、会議の運営を支援したロヴァニエミ市民を讃える。

【書面での実施】

○環境保全に関する行動目標の最終報告等

2016年7月の札幌市長会議で決議した、「エネルギーの転換と削減に関する取り組み」と「大気汚染などに関する環境保全の取り組み」について、各都市の環境保全に関する取り組み事例を会員都市間で共有した。

○第21回会議開催市について

事務局で2025年に開催予定の「第21回世界冬の都市市長会議」の開催市を募集したが、立候補した会員都市はなかった。ロヴァニエミ市長会議終了後も引き続き第21回市長会議開催市への立候補募集を継続していく。

世界冬の都市市長会会員都市 9か国 22都市	
カナダ:	エドモントン、ウィニペグ
中国:	長春、大慶、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、牡丹江、チチハル、瀋陽
エストニア:	ヴィームシ
フィンランド:	ロヴァニエミ
日本:	札幌
モンゴル:	ウランバートル
韓国:	華川、麟蹄、太白
ロシア:	マガダン、ノボシビルスク、ノリリスク
アメリカ:	アンカレッジ
	2021年11月現在

世界冬の都市市長会

World Winter Cities Association for Mayors

憲　章

2018 年 9 月改正

第１章　総則

（名称）
第１条　本組織の名称を、世界冬の都市市長会（以下「市長会」という）とする。

（地位）
第２条　本会は、事務局が置かれる国の法律に従って登録される非営利の国際機構とする。
2　本会は、事務局が置かれる国の法律に従って契約を締結し、法律行為を行う能力を有する。

（目的）
第３条　本会の目的は、以下のとおりとする。
(1) 積雪または寒冷という気象条件の下でまちづくりを行う都市が、共通する都市問題について相互に知恵と経験を分かち合い、その成果を積極的に市民及び地域に還元することにより、「快適な冬のまちづくり」に資すること
(2)「冬は資源であり、財産である。」というスローガンのもとで、“冬の都市運動”を積極的に展開すること
(3) 冬の都市間の協力と連帯を強化し、国際社会の発展と平和に寄与すること

（冬の都市の定義）
第４条　冬の都市を,次の各号の一に該当する都市とする。
(1) 1 年間のうちで積雪量の最大値が概ね 20cm（8 インチ）以上となる都市
(2) 1 年間で最も寒い月の平均気温が概ね摂氏 0 度（華氏 32 度）以下となる都市

（事業）
第５条　本会は、第３条に掲げる目的を遂行するため、次の事業を行う。
(1) 世界冬の都市市長会議（以下「市長会議」という）の開催
(2) 冬の都市フォーラム（以下「フォーラム」という）および冬の見本市（以下「見本市」という）の開催
(3) 小委員会の運営
(4) ニューズレター等の刊行物の発刊
(5) 活性化事業の実施
(6) その他本会の目的を達成するために必要な事業
2　前項第２号に規定するフォーラムおよび見本市の開催については、市長会議に併催させることを原則とする。ただし、市長会議開催市が開催を希望しない場合は、この限りでない。

第２章　会員

（会員）
第６条　本会の会員は、第４条に規定する冬の都市の中から、第８条の規定により役員会が入会を承認した都市とし,会員の代表者を市長する。ただし、市長が不在となった場合、市長の職務を代理する者が会員の代表者のすべての地位を引き継ぐ。

（名誉会員）
第７条　市長会は、本会または冬の都市全体の発展に対して特別な功績のある個人に名誉会員の資格を与えることができる。
2　名誉会員は、総会が任命する。
3　名誉会員は、市長会のすべての活動について通知され、総会及び市長会議に招待される。なお、名誉会員が市長会議に出席する場合、登録料は免除される。
4　名誉会員は、総会での発言権及び表決権を有しない。

（入会手続）
第８条　市長会に入会しようとする都市の市長は、会長あてに入会を申請するものとする。
2　入会申請を受理した会長は、入会の諾否を役員会に諮るものとする。
3 入会の承認は、役員会において、出席役員の過半数でこれを決する。
4 役員会は、入会申請の承認及び不承認を総会に報告するものとする。
5　役員会で入会申請が承認されなかった都市は、総会に出席して訴える権利を有する。この場合、入会は、当該総会で決定を行うものとする。
6　会員の資格は、役員会の承認又は総会の決定の日から効力を有する。

（退会）
第９条　会員は未払いの債務を精算したうえで、会長に退会届を提出することにより退会することができる。
2　退会届を受理した会長は、役員会及び総会に報告しなければならない。

（除名）
第10条　総会において会員の除名に関する決議がなされた場合、会員は本会から除名される。
2　いかなる会員も、事由の通知、異議申立て、もしくは役員会による聴聞が行われることなく、除名されることはない。
3　除名の決議は、総会において、出席会員

の 3 分の 2 以上の多数でこれを決する。

第 3 章　機構

（機構）

第 11 条　本会を運営するために、次の機構を設ける。

(1) 総会
(2) 役員会
(3) 実務者会議
(4) 事務局
(5) その他市長会を運営するために必要な機構

2　この憲章に定めるもののほか、前項に規定する各機構並びにその他総会及び役員会で承認される機構の地位に就くことができるのは、会員のみである。

第 4 章　役員

（役員）

第 12 条　本会に次の役員をおく。

(1) 会長　　1 名
(2) 副会長　3 名
(3) 理事　　2 名
(4) 監事　　1 名

（会長）

第 13 条　会長は、会員の中から総会において、出席会員の過半数により選出される。

2　会長の任期は、選出される総会から、後任の会長が選出される 4 年後の総会までとする。

3　会長の再任は、妨げない。

4　会長は、市長会を代表する。

5　会長は、市長会の全般について指揮する責を負う。

（副会長）

第 14 条　副会長は、次のとおり、会員の中から総会において、出席会員の過半数により選出される。

(1) 南北米地域　　1 名
(2) アジア・オセアニア地域　1 名
(3) ヨーロッパ地域　　1 名

2　副会長の任期は、選出される総会から、後任の副会長が選出される 4 年後の総会までとする。

3　副会長の再任は、妨げない。

4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5　副会長は、それぞれの地域を統括する。

（理事）

第 15 条　理事は、直近と次期の市長会議の開催市の市長とする。開催市の市長は、当該開催市での市長会議開催に先立つ 2 年前の総会から当該開催市での市長会議開催から 2 年後の総会までの間理事を務めるものとする。

2　理事は、相互に協力して次期市長会議の準備を進め、市長会議の円滑な運営に努める。

（監事）

第 16 条　監事は、会員の中から総会において、出席会員の過半数により選出される。

2　監事の任期は、初めて選出される総会から、後任の監事が選出される 4 年後の総会までとする。ただし、さらに 2 年後の総会までの再任は妨げない。

3　監事は、市長会の財産及び会計を監査する。

4　監事は、監査結果を役員会及び総会に報告するものとする。監事は、書面による監査結果の報告をもって、役員会への出席に代えることができる。

（残存期間）

第 17 条　役員会の役員が、役員の職を任期まで完遂できない場合、会長は、当該役員都市の後任の市長に対して、当該役員の残任期間、役員の職務を務めるよう要請するものとする。後任の市長が当該役員への就任を拒んだ場合、当該役員の残任期間を務める新役員は、会長が会員の中から指名する。

第 5 章　総会

（総会）

第 18 条　総会は、市長会議にあわせて 2 年に 1 回、会長が招集する。

2　会長は、臨時に総会を招集することができる。なお、臨時に総会を招集する時間がないときは、書面等による意思の確認により、臨時の総会に代えることができる。

（構成）

第 19 条　総会は、第 6 条に規定する会員をもって構成する。

2　総会は、原則として非公開とする。

3　会員の代表者若しくは第24条第1項に規定する代理人が総会に出席できない場合でも、会員の関係者はオブザーバーとして総会を傍聴することができる。この場合、当該会員は、総会に出席したものとはみな

されず、また発言権及び表決権を有しない。

（権限）
第20条　総会の権限は、次のとおりとする。
(1) 憲章を改廃すること
(2) 役員を選出すること
(3) 予算を承認すること
(4) 契約及び決算を認定すること
(5) 会費の変更を承認すること
(6) 市長会議開催市を決定すること
(7) 実務者会議の決議を承認すること
(8) その他、市長会の運営全般に関すること

（議長）
第21条　総会の議長は、会長が務める。

（定足数）
第22条　総会は、出席会員及び委任状を提出した会員の総数が過半数に達しなければ、これを開会することができない。

（議決）
第23条　総会の議事は、この憲章に定めるもののほか、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
2　総会の議決は、表決権をもつ出席会員の5分の1以上の要求がない限り、挙手によるものとする。

（代理人による表決）
第24条　やむを得ない事由のため総会に出席できない市長は、当該市長を代理する権限のある者を代理人として表決を委任することができる。この場合において、当該市長は、代理人に表決を委任する旨をあらかじめ書面で会長に通知しなければならない。
2　前項の場合における前2条の規程の適用については、当該会員は、総会に出席したものとみなす。

（運営）
第25条　この憲章に定めるもののほか、総会の運営に関し必要な事項は、役員会の承認を経て、会長が別に定めることができる。

第6章　役員会

（役員会）
第26条　役員会は、必要に応じ、総会にあわせて2年に1回、会長が招集することができる。
2　会長は、臨時に役員会を招集することができる。なお、臨時に役員会を招集する時間がないときは、書面等による意思の確認により、臨時の役員会に代えることができる。

（構成）
第27条　役員会は、第12条に規定する役員をもって構成する。
2　役員会は、原則として非公開とする。

（権限）
第28条　役員会の権限は、次のとおりとする。
(1) 入会申請の承認及び総会へ報告すること
(2) その他、本会の運営に関する重要な事項について必要な措置を講じること

（議長）
第29条　役員会の議長は、会長が務める。

（定足数）
第30条　役員会は、出席役員及び委任状を提出した役員の総数が過半数に達しなければ、これを開会することができない。

（議決）
第31条　役員会の議事は、出席役員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
2　役員会の議決は、役員の要求がない限り、挙手によるものとする。

（代理人による表決）
第32条　やむを得ない事由のため役員会に出席できない市長は、当該市長を代理する権眼のある者を代理人として表決を委任することができる。この場合において、当該市長は、代理人に表決を委任する旨をあらかじめ書面で会長に通知しなければならない。
2　前項の場合における前2条の規程の適用については、当該会員は、役員会に出席したものとみなす。

（運営）
第33条　この憲章に定めるもののほか、役員会の運営に関し必要な事項は、役員会の承認を得て、会長が別に定めることができる。

第７章　実務者会議

（実務者会議）
第 34 条　会長は、原則として市長会議開催前１年以内に、実務者会議を招集する。
2　実務者会議は、第 42 条第１項に規定する事務局の所在都市において開催する。
３　会長が必要と認める場合、実務者会議の開催市を前項以外の会員都市とすることを妨げない。

（構成）
第35条 実務者会議は、次の者から構成される。
(1) 事務局長
(2) 会員都市の上級実務者
2　会長または役員会が必要と認めたときは、オブザーバーとして関係者を出席させることができる。

（権限）
第 36 条　実務者会議の権限は、次のとおりとする。
(1) 市長会議開催市の選考基準及び選考手続きの改正
(2) 次期市長会議の開催計画案について討議し、承認すること。なお、本開催計画案には、市長会議の日程、会場、登録料の金額、案内状送付先、その他会議開催に係る基本的な情報が含まれていなければならない。
(3) 次期市長会議の協議セッションテーマについて討議し、決定すること
(4) 活性化事業計画について討議し、決定すること
(5) 市長会議で決議された課題について調査および研究を行うこと
(6) 本会の運営及び活動の円滑化を図るため、実務者レベルで討議を行うこと
(7) 第 34 条第３項による実務者会議開催市を決定すること

（議長）
第 37 条　実務者会議の議長は、事務局長が務める。
2　事務局長が議長を務めることができない場合、実務者会議の議長は、会長が指名する者が務める。

（定足数）
第 38 条　実務者会議は、出席会員及び委任状を提出した会員の総数が過半数に達しなければ、これを開会することができない。

（決議）
第 39 条　実務者会議の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
2　実務者会議の議決は、実務者会議の構成員の要求がない限り、挙手によるものとする。

（経費）
第 40 条　実務者会議の運営経費は、会議の開催市がその責を負う。
2　会長は、会長が定める日までに、実務者会議開催市の市長から書面により申請があった場合、別表２に定める額を上限とする実務者会議関係費を、２か年度にわたって、当該市長あてに交付することができる。
3　前項の交付を受けた市長は、会長が定める日までに、その使途を、会長に対して書面により報告しなければならない。

（報告）
第 41 条　事務局長は、実務者会議の決議を総会に報告しなければならない。

第８章　事務局

（事務局）
第 42 条　事務局の所在地は、札幌市とする。
2　事務局は、事務局長及びその他の職員によって運営される。
3　事務局長は会長が任命し、その他の職員は事務局長が任命する。

（担任事務）
第 43 条　事務局の担任事務は、次のとおりとする。
(1) 総会、役員会及び市長会議の議決事項の実施
(2) 総会，理事会及び実務者会議の運営
(3) 市長会議開催市決定の事務
(4) 本会の予算の策定
(5) 会員都市及び冬の都市協会等関係団体との連絡調整
(6) 出納事務
(7) その他、本会の運営に必要な事項で会長が指示した業務

（経費）
第 44 条　会長は、毎年度、別表２に定める額の事務局関係費を事務局長あてに交付する。
2　事務局長は、毎年度、会長が定める日までに、事務局関係費の使途を、会長に対し

て、書面により報告しなければならない。

第9章　市長会議

（市長会議）
第45条　市長会議は、役員会が決定する都市で2年に1回、会長及び開催市の市長が連名により招集する。

（構成）
第46条　市長会議は、第6条に規定する会員によって構成される。
2　会員以外の都市は、オブザーバーとして市長会議に参加することができる。

（議長）
第47条　市長会議の議長は、開催市の市長が務める。ただし、市長会議開催市の市長が他の者を議長として指名した場合は、この限りではない。

（議事）
第48条　会員及び第46条第2項に規定するオブザーバー出席者は、実務者会議で決定したテーマに基づいて討議する。
2　会長又は開催市の市長は、会員及びオブザーバー出席者の同意を得て、共同宣言等の発表を行うことができる。なお、同意の表決は、出席都市の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（運営）
第49条　市長会議開催市の市長又はその指名を受けた者は、常に会長と協議のうえ市長会議の運営の責を負うものとする。
2　市長会議開催市は、事務局と協議した上で、市長会議の開催計画案について第34条に規定する実務者会議に提案し、承認を得るものとする。
3　市長会議開催市は、市長会議で会員が討議するテーマについて各会員の要望を調査した上でテーマの案を実務者会議に提案し、承認を得るものとする。

（経費）
第50条　市長会議の運営経費は、市長会議開催市がその責を負う。
2　会長は、別表2に定める額の市長会議関係費を、2か年度に亘って、市長会議開催市の市長あてに交付する。
3　市長会議開催市の市長は、会長が定める日までに、市長会議関係費の使途を、会長に対して、書面により報告しなければならない。

（登録料及び宿泊料の免除）
第51条　市長会議開催市は、事務局と協議の上、市長会議の参加者から登録料を徴することができる。その場合、会員の代表者の登録料は市長会議開催市が負担する。
2　市長会議に参加する会員の代表者の会議開催前日から会議終了翌日までの宿泊料は市長会議開催市が負担する。
3　会員の代表者が指名する代理人が、その代表者に代わって市長会議に参加する場合、前2項の規定にある「会員の代表者」を「会員の代表者の代理人」と読み替える。

第10章　小委員会

（小委員会）
第52条　総会で承認されたテーマについて専門的に調査し、特別な研究を行うため、小委員会を設置することができる。
2　小委員会は、原則として会員の上級行政実務者から構成されるものとする。
3　小委員会を設けようとする会員は、総会に提案をし、承認を得なければならない。

（運営）
第53条　小委員会の事務局は、小委員会の設置を提案した都市に置き、当該都市が事務局運営の責を負う。
2　小委員会の事務局担当都市の市長が交替し、後任の市長が、事務局の運営を辞退した場合には、会長は、他の小委員会構成都市の市長と協議のうえ、事務局担当都市を決定するものとする。

（経費）
第54条　小委員会の運営経費は、事務局都市および小委員会を構成する会員都市がその責を負う。
2　会長は、会長が定める日までに、事務局都市の市長から書面により申請があった場合、別表2に定める額を上限とする小委員会関係費を、当該市長あてに交付することができる。
3　前項の交付を受けた市長は、会長が定める日までに、その使途を、会長に対して書面により報告しなければならない。

（報告）
第55条　小委員会は、役員会及び総会に対して年次報告を提出しなければならない。
2　小委員会は、市長会議でその調査結果及び報告を発表しなければならない。

（解散）
第 56 条　小委員会の解散は、総会において出席会員の過半数により決するものとする。

第 11 章　活性化事業

（活性化事業）
第 57 条　会員都市は、第 3 条の目的を達成するために、単独で、又は他の会員都市と共同で本会の活性化に資する事業（以下「活性化事業」という。）を実施することができる。
2　活性化事業の実施にあたっては、実務者会議の決議を経なければならない。

（幹事）
第 58 条　活性化事業の実施のために、幹事都市を置く。

（経費）
第 59 条　活性化事業の実施に係る経費は、事業を実施する都市がその責を負う。
2　会長は、会長が定める日までに、幹事都市の市長から書面により申請があった場合、別表 2 に定める額を上限とする活性化事業関係費を、当該市長あてに交付することができる。
3　前項の交付を受けた市長は、活性化事業実施後、会長が定める日までに、その使途を、会長に対して書面により報告しなければならない。

（報告）
第 60 条　幹事都市は、事業実施後，速やかにその成果を会長に対して報告しなければならない。

第 12 章　財務会計

（収入）
第 61 条　会員からの会費、寄附金、前年度からの繰越金及びその他の収入を市長会の収入とする。

（支出）
第 62 条　市長会の支出は、総会、役員会及び実務者会議の運営経費、事務局経費、市長会議、小委員会及び活性化事業への交付金及びその他必要な経費に充てる。

（会費）
第 63 条　会員は、別表 1 に定めるところにより年会費を毎年度 3 月末日までに事務局の指定する銀行口座に納入しなければならない。
2　別表 1 に定める年会費の額の変更は、総会において、出席会員の過半数によりこれを決する。
3　入会初年度の会費納入金額は、入会した月日にかかわらず、別表 1 に定める金額の半額とする

（予算）
第 64 条　市長会の予算は、事務局が策定し、2 年度分を総会へ提出し承認を受けるものとする。

（決算）
第 65 条　会長は、決算を調整し、監事の監査に付さなければならない。
2　会長は、決算書に署名を行う権限を有する。
3　会長は、監事の監査を経た決算を総会の認定に付さなければならない。

（会計年度）
第 66 条　市長会の会計年度は、毎年 1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終わる。

第 13 章　憲章の改正

（改正）
第 67 条　憲章の改正は、総会において、出席会員の 3 分の 2 以上の賛成により行われる。
2　憲章の改正にかかわる提案は、当該提案が提出される総会に先立つ少なくとも 1 カ月前に会員に対して周知されなければならない。

（効力）
第 68 条　憲章の改正は、総会の議決後直ちに効力を発する。

第 14 章　解散

（解散の宣言）
第 69 条　本会の解散は、総会において、出席会員の 4 分の 3 以上の賛成により、かつ本会を解散する意思を持つ会長の正式な宣言によって行われる。
2　本会の解散にかかわる提案は、当該提案が提出される総会に先立つ少なくとも 1 カ月前に会員に対して周知されなければならない。
3　本会の解散時に、資産を精算し、決算を

行うものとする。その他の残存資産は、市長会を解散する総会で可決される決議に従って配分されるものとする。

第 15 章　雑則

（顧問）
第 70 条　本会に顧問を置くことができる。

（運営）
第 71 条　本会の運営に関し必要な事項は、役員会の議決を経て、会長が別にこれを定める。

（補則）
第 72 条　この憲章の施行に関し必要な事項は、会長が責任をもって定める。

附則　憲章の承認には、北方都市会議委員会の過半数の委員の署名を要する。
2　この憲章は、1994 年 1 月 1 日から施行する。
3　北方都市会議委員会は、この憲章の施行の日をもって解散する。

附則（改正）　この憲章は、2000 年 2 月 12 日から施行する。

附則（改正）　この憲章は、2004 年 2 月 19 日から施行する。

附則（改正）　この憲章は、2008 年 1 月 19 日から施行する。

附則（改正）　この憲章は、2012 年 1 月 13 日から施行する。ただし、改正後の第 34 条の規定は、2013 年 1 月 1 日から適用する。

附則（改正）　この憲章は、2013 年 12 月 1 日から施行する。

附則（改正）　この憲章は、2018 年 9 月 12 日から施行する。

［別表 1］
年会費（1 月 1 日～12 月 31 日）

(単位: US$)

GDP / 人口（人）	0-9,999	10,000 以上
0 - 499,999	1,000	2,000
500,000 - 999,999	1,500	4,000
1,000,000以上	2,000	6,000

会員は、上表により、その国の 1 人あたりの国内総生産額と都市人口に応じて年会費を収めるものとする。これら 2 つの数値は、以下の資料に基づく。
(1)　各国の 1 人あたりの国内総生産額（GDP＝Gross Domestic Product）
　　数値の出典：国連「Statistical Yearbook」
(2)　都市人口（市域の人口であり、都市圏の人口は含まない）
　　数値の出典：国連「Demographic Yearbook」
　　上記の資料に人口が未掲載の都市は、各都市の申告に基づく。

［別表 2］
交付金（一会計年度）

補助金名	交付割合	交付先
事務局関係費	会費総収入額の 10%	事務局長
市長会議関係費	会費総収入額の 60%	市長会議開催市の市長
実務者会議関係費	会費総収入額の 10%	実務者会議開催市の市長
小委員会関係費	会費総収入額の 5%	小委員会事務局都市の市長
活性化事業関係費	会費総収入額の 15%	幹事都市の市長

会費総収入額とは、会計年度末現在、事務局において収入調定を了した会費収入の合計額のことをいう。